

鼠癌移植經過中二於ケル肉腫發生ニ就テ(表一、附圖三表)

von Mäusekrebs. Beiträge zur Kenntnis der Sarkomentwicklung bei der Transplantation

九州帝國大學醫學部病理學教室

浅 田

nd (1907)®、我ガ國ニテハ林®ノ研究アリ。最近ニ於テハ William H. Woglom (1917)®ノ研究アリ。 初發見セシハ Leo Loeb. (1903) ミナリ。是ニ次デ Ehrlich u. Apolant (1905) ® Bashford, Murray u. Haala-余ハ我病理學教室ニテ大正八年山本(伊)®ノ發見セシ日本産まうす癌腫ノ移植經過中肉腫發生ノ奇現 鼠癌ノ移植經過中ニ肉腫發生ノ現象ヲ見ルコトハ實驗腫瘍學上ノ興味アル問題ニシテ、本現象ヲ最 〇淺田・鳳痛移植經過中二於ケル肉腫發生二就テ



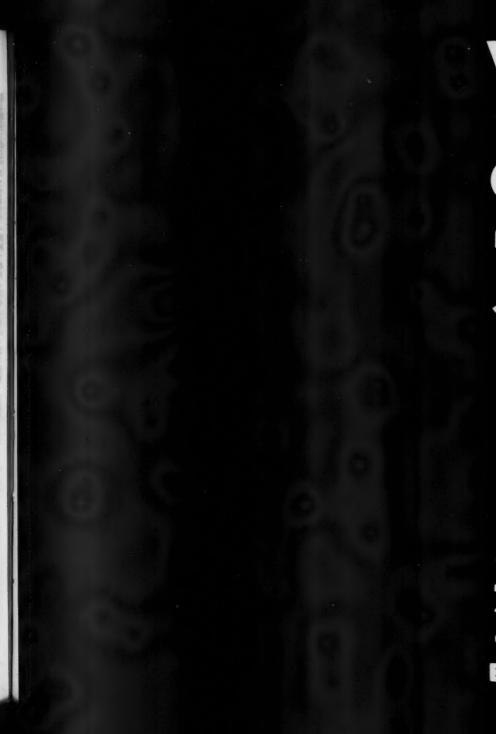
鼠癌移植經過中二於ケル肉腫發生ニ就テ(表一、附圖三表)

von Mäusekrebs. Beiträge zur Kenntnis der Sarkomentwicklung bei der Transplantation

九州帝國大學醫學部病理學教室

浅 田

nd (1907)®、我ガ國ニテハ林®ノ研究アリ。最近ニ於テハ William H. Woglom (1917)®ノ研究アリ。 初發見セシハ Leo Loeb. (1903) ミナリ。是ニ次デ Ehrlich u. Apolant (1905) ® Bashford, Murray u. Haala-余ハ我病理學教室ニテ大正八年山本(伊)®ノ發見セシ日本産まうす癌腫ノ移植經過中肉腫發生ノ奇現 鼠癌ノ移植經過中ニ肉腫發生ノ現象ヲ見ルコトハ實驗腫瘍學上ノ興味アル問題ニシテ、本現象ヲ最 〇淺田・鳳痛移植經過中二於ケル肉腫發生二就テ



腫ニ動シテ発癌性大ナルまうすニ移植シタルニ第十二世代ニ於テ純粹ナル肉腫ヲ生セリト。然レドモ本肉腫ガエールリッヒノ例ノ如 zeramora, zaurray u. ziaalangs ハ解痛ヲ移相シテ第七世代ニ於テ癌腫ト肉腫トノ混合型ヲ得而テ第九世代ニ於テ三例ノ内一例ヲ痛

うすノ可移植性腫瘍ハ本來ノ癌腫トハ異リムシロ Cylindromata ニ近似セルモノナリトISへり。 テハ生理的ニ上皮性細胞ハ結締織性細胞ニ變化シ得,由是觀之病的組織タル腫瘍ニモ此現象アリ得ペシト云フニアリ。Ribbertはハま 二於テ結締織性ニ變化セシモノナリトノ説ヲ立テタリ。其ノ理論ハ胎生學及ビ動物學ニ基礎ヲ有ス、卽チ胎兒及ビ下等脊椎動物ニ於 ク後世代ニ移植セラレ得シャハ疑問ニシヲ其ノ後文獻ニ表ハレザレバ詳カナラズ。Krompecher四ハ上皮性細胞が直接ニ生物學的意味

スルニ非ズシテ結締織ニ其ノ起原ヲ有スルモノナリト云へり。然レドモ余ノ甚ダ遺憾トスル所ハ同氏が原嚢腫瘍ノ所見ヲ記載スルコ 賞ニ軟骨細胞ヲ發見シ、本細胞ノ周闐ニハ紡錘形肉腫細胞アリタリ。依テ彼ハ肉腫部ニ軟骨出現セシハ抑ミ肉腫が上皮性ノ起因ヲ有 胞が結婚機細胞ニ變化シ得ル可能性ヲ逃ベタリ。尙同氏ハ可移植性癌軟骨肉腫ヲ寅驗セリ、卽テ第二世代ト第三世代トニ癌細胞ノ問 ^ 三例ノ原養性癌腫ヲまうすニ漿見シ顕微鏡的ニ癌細胞が次第ニ紡錘形細胞ニ移行スルヲ目撃シ、コノ寫眞ヲ文獻ニ揚ゲテ上皮性細 ちーるんぐヲ起シ細胞ノ形ハ小トナリ胎生時中肝葉細胞 ト組織的ニ區別シ得ザル檬 ニナリタルニアラザルカト。近來 II. Woglom ⑸ 林直助のハバシュフォド種鼠癌移植中間形細胞肉腫数生ヲ数見シ説明シテ曰ク癌細胞ハ移植經過中共ノ毒性ヲ増シ漸次ちふえれん 即既ニ原發腫瘍が混合腫ニシテ軟骨細胞ヲモ含有セザリシヤニ魅ヲ容ル、餘地ナキニシモアラズ。

肉、 之ヲ要 能ラルオ 入フコトナ 一、上皮性 三、及、 5 ク・シ・テ・ V ラ成功 間、 10 單、 せい ショ 唯一八材料 的 トゥルカ 啦, ナッリ・ 有、有、 ヲ、唱、 ルり セ、惟、所、 アニ同 ショト大ニカア 100 ルハノハミ ルカ ミニシテ 11 11 い ル・モ・ 中、ビ、 ハナ・ 110 七多キハ鼠癌 = 1 リト カデル 而, テ、上、 リン生い 20

精細ナル檢索ヲ遂ゲ得タレバ本年四月京都開催ノ癌研究會『二發表シ標本ヲ供覽シタリ』 象ヲ見テ大正九年十月九大ウ*ルヒョウ祭□ニ報告シ、更ニ大正十年四月癌研究會□三報告セリ。 同年十一月幾多ノ實驗ノ結果右移植癌ョリ發生セシ純粹紡錘形肉腫ノ敷世代ニ及ゾ移植ヲ成功シ、

二、移植癌中肉腫發生ニ對スル諸家ノ見解

分化セザル胎生的ノ肉腫細胞泥セラレ、此者が刺戟ニヨリテ敷世代ノ後ニ分化シ初メテ肉腫ヲ形成スルモノナリト云ヘリ。之レニ對 物通過ニョリテ愈ら増殖シ滗ニ内隙ヲ形成スルモノナリト。此ノ說ニ對シ Schlagenhauferw ハ自己ノ観察セル混合腫即一ツン乳腺ニ 此三種ノ可能性ノ内彼レハ第三ノ楊合ヲ認メ、問質結締織ヲ肉腫發生ニ至ラシムペキ刺戟トシテ微生物ヲ擧グルヲ至常ナリトセリ。 痛細胞が結締織性ノ肉腫様細胞ニ變化スル場合,第三,間質結締織が癌細胞ノ影響ヲ受ケテ肉腫發生ヲ起ス場合ノ三アリトシ。且ツ 廐ノ爲メニ不可能ナリシト云フ。彼ハ肉順發生ノ可能性ヲ説明シテ、第一、原發腫瘍が初メヨリ肉腫ヲ混セシ楊合、第二、上皮性ノ 或ハ是箏ト腺瘍トノ混合腫ヲ得、吹ニ第三世代ニ於テハ大部肉腫ヲ生ジ一部ニ尙腺腫ヲ混ジタルモ、其ノ後ノ移植ハ日本産まうす拂 癌體ト巨大細胞肉腫トが同時ニ存在セル例ヲ根據トセ、多クノ腫瘍ハ胎生的萌芽ヨリ教生スペク鼠癌ニ於テモ同様旣ニ原發腫瘍内ニ ベリト云フ。而シテ肉腫發生ヲ説明シテ曰ク抑く移植ニ際シテハ癌細胞ト同時ニ間質結締組織モ移植セラレ、後芥ガ多數ノ被移植動 ノ混合型ノ曼現ヲ見,ソノ内ヨリ初メテーツノ可移植性純粹肉腫ヲ生ジ,十四世代以後其移植率ハ益く高マリ途ニ第二十六世代ニ及 長時日二及ブ潜伏期ハ到底想像スペクモアラズト。 ペタ。且ツ第三例ニ於テハ第六十八世代ニ於テ混合鹽ヲ生ジ其次世代ヨリ或ルモノニ純粋ナル肉膻ヲ出現モシメタリ" シ彼ノ Ebrlich u. Apolaniのバ再ビ曰り最初ヨリ混合型ノ腫瘍ナリセパ原發腫瘍ヨリ肉腫聚生迄ニ九ケ月ヲ要シコノ間へ潜伏期ト見ル Ehrlich u Apolant②小腺癌ヲ移植シテ第十世代ニ於テ肉腫ト癌腫トノ混合型ヲ得、次ニ第十一、十二、十三世代ニ於テモ同模機多 最初ノ赞見者タル Leo Loebe ハ日本産まうすニ腺癌ヲ發見シ之レヲ移植セルニ旣ニ第二世代ニ於テ紡經形網胞乃至繊維腫性肉腫

Bashford, Murray u. Haaland® <膝痛ヲ移植シテ第七世代ニ於テ薬臘ト内腫トノ混合型ヲ得而テ第九世代ニ於テ三例ノ内|例ヲ痛

■二割シテ晃疫性大ナルまうすニ移植シタルニ第十二世代ニ於テ純キナル両重ヲドセリトの Milin になる

⑷五月九日死亡、鳩卵大、組織的ニハ前者同樣實性胞窠瘍ニシテ間質增殖モ强シ。 (9陽性ナレドモ組織的所見不詳。 中心部へ壊死ニ陥り周邊部ニハ癌胞錠アリテ胞錠間ノ間質へ强ク増殖シ、毛細管新生、結締機成形細胞等アリ。 ①移植陽性ニシテ四月二十日摘出、Nr. 45 四匹ニ移植、其ノ當時母指頭大ノ結節ヲツクレリ。三ヶ處ヨリ組機標本ヲ作リ橡スルニ 本例ハ十匹中三匹陽性ニシテ他ノ七匹ハ陰性ナリ卽陽性率ハ三〇%、蟄育程度皆緩慢ナリ。

四日二十日移植、四匹、移植片、Nr. 32(I) ナリ。

79 十三匹ニ移植ス"其ノ當時鳩卵大ニシテ摘出後再發ヲオコサシムル爲ニ米粒大ノ腫瘍組織片ヲ殘留セリ,組織的所見ハ中心部ニハ ナル壊死電アリ、周邊部へ實性胞窠癌ノ部ト瀰慢性ニシテ紡錘形細胞ヨリナリ肉腫ト見ルベキ部トアリ、兩者ノ境界へ判然あり、 腫瘍ヲ摘出 Nr. 96. (十四匹)移植當時三箇ノ再發結節ヨリナリーツハ示指頭大他ノニツハ豌豆大,後者ノーツヲ痩シオケリ,組織的 性胞竊痛ノ像ヲ呈セリ、然レドモ中心部墺死電附近ニテハ前者同樣腫瘍細胞ハ紡錘狀トナレルモノアリ"十月二十四日第三囘目再發, 第二囘目再發、腫瘍ノ大部分ヲ摘出シテ Nr. 88. 十匹ニ移植ス、當時二箇ノ小指頭大ノ結節ヲツクリ組織的ニハーツハ糖棲瘍他ハ實 二反シテ中心部ノ壊死電附近ニテハ瘍腫細胞ハ長短ノ紡錘形トナリ此ノ部ノミヲ見ル時ハ肉腫ト見テモ可ナル像ヲ呈セリ、十月三日 頭大、組織的ニハ癌胞寡ヲ見ルコト少ク大部ハ囮形ノ腫瘍細胞が瀰漫性ニ害ニ存在シ間質モ極僅カニシテ膣棲癌ノ像ヲ呈セリ、之レ 九月二十三日第一同目再發、腫瘍ノ一部分ヲ殘シテ捕出、Nr. 86. 十匹ニ移植、當時二箇ノ再發結節アリ、一ツハ豌豆大、一ツハ小指 部トアリ、後者ハ穪胞索ヲツクルコトナク瀰漫性ニシテ間質ニ富ミ従テ弱漢大ニテハ胞窠部ヨリモ明カルグ見エ且ツ穪胞浸潤多シ、 大ナル壊死職アリテ周邊部ニ腫瘍組織殘存スルノミ、此部ニハ寅性ノ癌胞窠ヲツクレル部ト短紡錘形細胞ヨリナリテ肉腫ト見ルペキ メルク製ノかるみんヲ使用セリ)③ 九月三日嶋卵大ノ結筋 トナレル腫瘍ヲ摘出シテ Nr. 78. 七匹ニ移植セリ組織的 ニヘ中心部ニ大 みん!注射ヲ行ヒシモ 色素悪シクシテ 目的ヲ達 スルコトヲ 得ザリキ、組織的ニハ 寅性胞窠癌 ノ像ヲ呈セリ、(以後ノ生體染色ニハ 二へ大體ニ於テ體標癌ナリ、墺死職附近ニテハ腫瘍細胞ハ紡錘狀トナレリ,最後ノ殘部結節ニ對シテハ十月三十日ヨリリちおんかる ②六月十八日初メテ豌豆大ノ結節ヲ觸ル、同二十日初メテ分娩ヲナス、九月四日即移植後百三十五日目ニ摘出シテ Vr.

〇浅田・泉鴉移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

混合腫ナルヲ主張スルハ鼠癌ヨリノ肉腫發生ノ材料ヲ自ラ親シク研究セ ザリ シ者ノ稱ス ル想像説ナ

三、實驗例

ブ移植ニ成功シタル一例ヲ系統的ニ精細ニ述ベン (第一圖參照)。 本系鼠癌移植經過中肉腫發生ノ現象ヲ生ジタル例ハ多敷ナレドモ、先ヅ此續發肉腫ガ數世代ニ及

摘出シテ Nr. 25 ニ移植セリ。組織的ニハ其ノ摘出結節ハ癌腫ト紡錘形細胞肉腫トノ混合型ヲ皇セリ、即中心部ニハ小ナル壊死竈ア り。陽性者中一例ハ翌年一月二十四日示指頭大ノ結節ヲ以テ死亡ス。他ノ一例ハ十二月十六日母指頭大ノ結節トナリタルヲ以テ同日 Nr. 16. 原發癌移植第七世代ノ後裔ニ相當ス。大正九年十一月六日移植ス、使用動物十匹中ニ二匹陽性即二〇%ノ陽性率ヲ示セ 周邊部ハ痛ノ寅質性胞窠或ハ腺腫狀ヲ呈シ之レト混ジテ紡錘形肉腫ノ部散在ス。

圖中ニ記セリ。再發結節ハ組織的ニハ初メノ結節同樣癌腫ト肉腫トノ混合型ナルモ前者ノ加ク明カナル紡錘形細胞ハナクシテ寧ロ多 發生ノ現象ヲ起スコト殆ンドナク本來ノ搞腫ノ係ヲ失ハズシテ高移植能率ヲ以テ現在ニ至ルマデ移植セラレタル例ナレバ動照トシテ 彩細胞肉腔ト稱スベキモノナリ。 本例ハ擴出後再發ヲ生ジ翌年一月二十二日母指頭大トナル同日再ピ擴出シテ Nr. 30. ニ移植ス。此モノハ以後ノ世代ニ於テモ肉腫

摘出シテ Nr. 32. 十匹ニ移植ス。組織標本ハ癌腫ノ像ヲ呈スレドモ腫瘍綱胞ハ癌胞窠ヲ形成スルコト少ク一見瀰漫性ニシテ唯周邊部 五月九日撲殺、結節ハ示指頭大、組織的ニハ寅寅性胞窠瘍ナリ。(6)7共ニ移植陰性、 ニ僅カニ腺機配列ノ痕跡アルノミ。二月十九日再變シテ豌豆大トナル。4陽性翌年五月十五日死亡、鳩卵大ノ結節ヲツクル。5陽性 大正九年十二月十六日移植,使用鼠七匹。(1/2)内ハ親鼠ニシテ移植陰性、(3陽性翌年一月二十七日母指頭大トナル、同日

之レヲ要スルニ本例ハ四三%ノ移植率ヲ有シ、赞育程度ハ甚が緩慢ニシテ45ノ如キハ移植後五六ケ月モ生存スルコトヲ得タリ。 大正十年一月二十七日十匹二移植、移植片ハ:Nr. 25(3)ナリ。

シテ腫瘍細胞ノ間ニ浸入シ爲ニ其ノ部ノ腫瘍細胞ハ長形トナリ肉腫ノ親ヲ呈セリ。 大體ニ於テ癌腫ト見ルベキモノナルモ腫瘍細胞ハ胞窠ヲツクル性質ニ乏シク瀰漫性ニ存在シ、特ニ或ル部ニ於テハ間質結締組織增殖 鍾形耦胞間ニ存在スルヲ見ル。、附圓第三ロ鏊照)⑶移植陽性結節ハ十日目ニ小指頭大二十三日日ニ示指頭大ニ逾ス。同日二%ノリち 此組織球ハ輪~遠の壞死竈ヲ距リシ部位迄存在セリ,然レ共癌胞竃ノ内部ニハ浸入スルコト不可能ニシテ唯其間質竝ニ肉腫部ノ長紡 死竈附近ヨリモ其ノ數少シ、壞死竈附近ニ於テハ之レニ反シテ多數ノ大小色素顆粒ヲ攝取セル巨大ナル組織球多數ニ存在セリ。加之 おんかるみん○•一ヲ腹腔内ニ注射 セルニ直ニ死亡ス,依テ結節ヲ摘出シ Nr. 98 五匹ニ移植 セルモ皆陰性ニ終リタリ。組織的ニハ 糊ナル少數ノ赤色顆粒ヲ示セル外、歯ヨリ大ナル顆粒ヲ多數ニ取リタル閻形ノ細胞アリ、之レ清野博士ノ組織球ナリ、但シ此者ハ纏

(4)(5)(6)(7)(8)(9)の八皆移植陰性ナリ

本例ハ二〇%ノ陽性率ヲ示シ蟄育程度ハ中等度ナリ、組織的ニ癌腫ト肉腫トノ混合型ヲ示セリ。

窠ヲツクルコト少シ、腫瘍被囊ノ結締組織ハ 増殖シ其細胞ハ色素顆粒ヲ 明カニ織取シ 結締織繊維ト共ニ色素顆粒 ナキ腫瘍細胞問 ズ,十一月二十三日ヨリちりおんかるみん!腹腔内注射ヲ初ム,二%/色素液ヲ ○・一,○・一五,○・一五,○・一五、○・二/分量 ナリ粘液變性ヲ起セリ、或ハ紡錘形狀 トナレル部アリ、或ハ艦胞塞 が狭長キ細胞索 ヲツクリ、払ノ案内ノ細胞核ハ長形 トナレル 匹ニ移植ス。組織的所見。大體ニ於テ癌腫ノ狀ヲ呈シタルモ腫瘍細胞ハ胞窠ヲツクル性質ニ乏シク。或ル部ニテハ癌細胞が星芒狀 テモ色素顆粒ヲ攝取スルコト無キハ注意スペキ點ナリ(第三國)(2巻照)。(3)陰性。(4)十一月十三日示指頭大,同日摘出シテ Nr. 101 八 ナリ單二其ノ局部ノミヲ見ル時ハ紡錘形細胞肉腫ノ狀ヲ呈セル所多シ。乍併腫瘍細胞が如斯紡錘狀トナリ其部ノ組織が肉腫樣トナリ 何ニョリテ観取シ得、尙中心部ノ墺死竄附近ニハ非常ニ多數ノ大小組織球アルト同時ニ此附近ニ於テモ亦稿網胞自身が長紡錘形狀ト **浸入セリ、爲メニ腫瘍細胞ハ長形トナリ、且ツ間質繊維多キ處ニテハ却テ此巾ニ腫瘍細胞ハ散在スルモノアルコトヲ色素顆粒排収** ヲ以テ毎日注射スルコト五日間、六月目ニ殺。組織的所見。中心部ニハ可 ナリ大ナル 壊死粒アリ、大體ニ 於テ癌腫 ト見ルベキモ胞 5)移植後四十二月目ニ小梢頭大トナル。常日ヨリ三日間二%ノリちおんかるみん液ヲ○・一、○・一五、○・一五ノ割合ニテ 十月二十四日移植,十四匹,移植片ハ Nr. 45(2) III. Recidiv テリ、(1)陰性、②移植後二十日目ニ小指頭大ノ結節ヲ生

〇淺田・鼠癌移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

タルモノナシ、共ノ他本例ニ於テハ癌細胞が容易ニ境遇乃至周圍ノ狀況ニヨリテ紡錘狀トナレル所アリ。 ズシテ楊合ニヨリテハ囮形細胞肉腫ト稱スルガ至常ナルモノアリ、又肉腫細胞ハ一般ニ瀰慢性ニ雑然トシテ存在シ。未ダ細胞索ヲツ タリ部腫瘍細胞ハ毒性婦メテ絹クシテ且ツ一方組織的ニハ肉腫發生ノ現泉ヲ生ゼリ、然レド肉腫細胞ハ未ダ典型的ノ長紡錘形ヲ取ラ 本側ハ之レヲ娶スルニ五○%ノ移植能率ヲ示シ、蟄育程度ハ皆極メテ緩慢シテ移植後五六ヶ月モ被移植まうすハ生存スルコトヲ得

九月三日移植、七匹、移植片ハ Nr. 45. (3)ナリ"使用動物中陽性者へ唯一匹ニシテ即一四•三%ノ陽性率ヲ示シ組織的ニ

簡ヲ生ジタルモノ十匹アリタリ"其ノ内二匹ノ小結節ヲ摘出シ他ノ幼鼠ニ移植ヲ試ミタレドモ全部陰性ニシテ移植陽性準零%ナリ。 九月四日移植,使用動物十三匹,移植片ハ Nr. 45. (2)ナリ"本例ハ移植後十日乃至十四日ニシテ小豆大ヨリ豌豆大ノ結

アレドモ途二消失ス即帰性率零%ナリ。 九月二十三日移植、使用動物十匹、移植片ハ Nr. 45(2)1. Recidiv. ナリ、移植後二週間目迄ニ結節ヲ殘シタルモノ一匹

分量ニテ 三日間注射シ 四日日ハ休ミ、第五日目ニ撲殺シテふぉろも‐るあるこほるニ固定シぢぇろいじん包埋ラナシへまときもりん テ検査スルニ壊死箆ハ僅ニ中心部ニアリ、周邊部ハ癌腫ト肉腫トノ混合型ニシテ兩者ノ境界ハ判然タラズ、肉腫部ハ長或ハ短紡錘形 **委及ビ壊死衛附近ニアッ、郭履審被案ニ於テハ結絡組織ハ増順シ核ノ短大トナリタル結結機成形細胞ト見ルベキモノガ其ノ馳體ニ徴** かるみん顆粒ハ癌細胞ニ存在セザルハ勿論紡錘形肉腫燥細胞小全然之ヲ議取セルモノ無シ。而テ色素顆粒ヲ議取セル細胞ハ唯腫瘍被 即攜臘ト肉腫トノ混合型ナリ。而シテ長紡錘形腫瘍細胞多キ部ハ繊維性ノ基質モ多ク且相竝行シテ走り精ミ東狀ヲ成セルモノアリ、 核染色ヲ行ヒタリ、癌胞窠ハ周邊部ノ一部アルノミニシテ他ノ大部ハ細胞索ヲ形成セズ瀰慢性ニ存在セル長短ノ紡錘形細胞=リナル おんかるみん!腹腔内注射ヲ行フ當時動物へ體重十一瓦牛ニシテ築養耳、四%!色素液ヲ二倍ニ稀釋シ ○・一、○・一五,○・一五! 腫瘍細胞ヨリナリ細胞ハ其ノ配列維然トシテ存在シ、索ノ形成不完全ナリ。十一月六日小指頭大ノ再發結節ヲ生ズ翌十七日ヨリリち ノ結節ヲ生ジ、十六月目ニ示指頭大トナリタレバ摘出シテ一部ヲ殘留シ Nr. 94. 八匹ニ移植セリ、摘出結節ノ中部ヨリ組機片ヲトリ Nr. 88. 十月四日移植,使用動物十匹,移植片ハ Nr. 45(2) H. Recidiv ナリ,ロ早期死亡,②移植陽性ニシテ十日目ニ小豆大 胞體ニ色素顆粒ヲ攝取セルモノナシ。8 早期死亡。 注射部ニー致シテ小ナル壊死アリテ腫瘍細胞核ハ赤色セリ之死後染色ニシテ其ノ他核及ビ胞體が瀰漫性ニ染色セルモノアリ。兎モ角 日母指頭大ノ再發結節ヲ生ズ。 鼠體ノ榮養悪シク生體染色ニ耐へ得ペクモアラザレパニ%ノ色素液ヲ二日間 ○•一ヅ、結節内ニ注: テ長紡錘形網胞ョリナル。而テ腫瘍細胞ハ敷個相竝行シテ走り所謂細胞東ヲ形成シ種々ノ方向ニ走ル。癌胞窠ハ全然無シ。十二月五 取せザルコトハ確カナリ。77移植後二十日目示指頭大結節ノ一小部ヲ殘留シテ - Nr. 102. 七匹ニ移植セリ。組織的ニハ純粹肉腫ニシ 衝ヲ行フテヨリ間モナケレバ腫瘍細胞ハ一般ニ縮小セル観アリ。又色素顆粒攝取ノ度ハ一體ニ弱ケレドモ、腫瘍細胞ガ色素顆粒ヲ議 行フ、二%りちおんかるみん○・一ヲ二日間注射ス、最後ノ注射後約六時間ニシテ死亡ス。組織的ニハ同棲混合型ナルモ一部摘出手 時ニ間質ヲ増シテ鬆粗トナリ。カクシテ肉腫部ニ移行セルヲ見ル、(第二圖(5)参照)十一月六日ヨリ殘部結節ニ對シテ生體染色ヲ 界ナクシテ確カニ相互移行セル像ヲ呈セリ。卽チ癌細胞ハ囮形ニシテ胞窠ヲツクレルモノが次第ニ長形ヲ帶ビ徐々ニ紡錘狀トナリ同 かるみん 二%〇・一ヲ 注射セルニ二時間後死亡ス,組織的所見不詳。⑥移植後十三日目小指頭大ニ達ス同日一部攜出シテ鏡橡スルニ ナルモ後者ハ明カナル癌胞錠ヲツクルコトナシ。②③4移植陰性ナリ。⑤移植後 二十日目 ニ豌豆大 トナル、十一月十三日 りちおん :節ノ中心部ニ極小ナル墺死竈アルノミニテ大部ハ紡錘形細胞肉腫、一小部ハ寅性胞窠瘍ナリ。而シテ兩者ノ間ニハ全ク明カナル境 第二囘ノ注射後十二時間ニシテ死亡ス。鏡檢スルニ純紡錘形肉腫ニシテ癌腫ヲ混セザルコト前者同様ナリ。墺死電ナク唯色素液 | 母指頭大二及ブ。組織的所見。中心部ノ大牛へ壊死ヲ生シ周邊部ハ紡錘形綱胞肉腫ヲ呈セル部ト編腫ト見ルペキ部トヨリ

ノ二匹ニシテ純肉腫ノモノ一匹(7アリ、然カモ後者ハ以後ノ世代ニ移植シ得ラレタル唯一純肉腫ノ例ナリ而テ之レが移植世代ヲタツ 之レヲ要スルニ本例ハ八匹中一匹ノ早期死亡ヲ除外シ陽性者(US)6(汀)ノ四匹ナレバ移植陽性率五七%ナリ。組織的ニハ混合型ノモ

死亡ス。當時米粒大ト小指頭大トノ二箇ノ結節ヲ形成セリ。次世代ヘノ移植ハ行ハザリキ。組織的ニハ大體ニ於テ肉腫ノ像ヲ呈セシ モ細胞ハ短紡錘形ニシテー小部ニ細胞集團シ癌胞窠ニ似タルモノアリ、未ダ純粋ナル肉腫ト釋シ難シ。 十一月十三日移植、八匹、移植片ハ Nr. 96(4)ナリ、本例ハ八匹中僅ニ(4)一匹ニ陽性ナルノミニシテ移植後三十日目ニ

〇浅田・鼠癌移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就デ

植後十九日目ニ小指頭大トナレリ、りちおんかるみん二%ヲ○•一注射セルニ 六時間後死亡ス。組織的所見。實性胞窠瘍 ナルか或ル 色へ不充分ナレドモ本來ノ癌細胞及ビ紡錘形腫瘍細胞ハ色素顆粒ヲ攝取セザルコトハ明カナリ。8移植陽性ナリシモ所見不詳。 前者ノ如ク混合型ナレドモ肉腫發生最初期ノ像ヲ見ルコトヲ得ズシテ實性胞策癌ト紡錘細胞肉腫部トが雑然トシテ混在セリ。生體染 トナレル細胞ハ茲ニ細胞柱ヨリ游離シ、カクシテ紡錘形細胞肉腫ノ像ヲ呈セシメタリ(第二圖ふ4參照)。十二月八日ヨリ殘部ノ腫瘍 癌綱胞自身が次第ニ變形シテ紡錘狀トナリ途ニ肉腫部ヲ形成セルヲ知ル。卽チ癌胞窠ハ結節ノ中心部ニ向ヒテ漸次狹ク糊ク長クナリ 織的檢索ヲナス、當時結節ハ僅カニ豌豆大ナリキ。所見。本例ハ最モ重要ナル事實即肉腫發生ノ最初期ノ像ト見ルペキモノヲ提供 性ノ為メニ核及ど胞體が瀰漫性ニ染色セル腫瘍細胞アルノ外多クノ組織球アリ。⑥早期死亡。⑦移植後十三日目一部摘出ヲナシテ組 イツレニセ=腫瘍細胞ハ色素顆粒ヲ攝取スルコト全然ナキニ依り幼者ナル結締織性細胞ト區別シ得。中心部ノ瘻死鼈附近ニハ退行變 被震及ビ腕窠間結締組織へ堵殖シ、殊ニ後者ニ於テハ幼若ナル結締組織成形細胞多數ニ生ジ、微細ナル割ニ少數ノ色素顆粒ヲトレリ。 腹腔内ニ注射シ四日目ニ殺。組織的所見。大體ニ於テハ癌腫ナリ。中心部ハ大部壊死ヲオコメ周邊部ハ實性胞薬癌ノ像ヲ呈ス。腫瘍 モノハ隗軍ヲ形成セル細胞が囮形ナラズシテ紡錘形狀ヲナセリ卽紡錘形腫瘍細胞ニョリテ胞軍が形成セラレタルモノアリ、⑴陰性。 テ細胞素或ハ細胞柱ヲ形成シ且此案内ニ含有セラレタル細胞ハ紡錘狀トナル。而モ此細胞柱ノ末端ハ扇ノ契狀ニ擴張放射シ、紡錘狀 り。弱攘大ニテハ周邊部ノ寳性胞粱瘍ト中心部ノ紡錘形細胞肉腫トノ混合型ナルコトヲ知ルベク、而シテ兩者ノ境界部ヲ精査スルニ カク増殖セル結締組織ハ癌胞露内ニモ浸入シ、一方浸入ヲウケタル癌細胞ハ長形ニ戀シ胞窠ョリ游離シテ間質内ニ散在スルモノアリ。 劃シテ生體染色ヲ行フ。二%ノ色素液ヲ○・○八、○・一ノ割ニニ日間注射ス、最後ノ注射ヨリ五時間目ニ死亡ス。組織的所見。

大體ニ於テ癌腫ナレドモ癌細胞ハ周圍ノ狀況ニョリテ容易ニ紡錘狀ニ變形ス。一例ニ於テハ肉腫養生ノ最初期ノ僕ヲ得タリコノモノ 二於テハ癌細胞が直接肉腫狀トナル第二一致セリ。 本例へ移植陽性者六匹,早期死亡四匹ニシテ之レヲ除外スレパ六○%ノ陽性率ナリ。發育程度ハ徼弱乃至中等度ニシテ組織的

十月二十四日移植,使用動物八匹,移植片へ Nr. 88(2)ナリ。(1)移植後五十日目ニ傷カニ豌豆大ノ結節ヲ闖ル,百二日

日小指頭大摘出シテ Nr. 119. 十匹ニ移植ス。組織的ニハ純肉腫ニシテ細胞束ノ形成著明ナリ。8)陰性。9)陽性三月十九日ニ死亡。 出セルニ中心部ノ軟化大ナリキ。組織的ニハ純紡錘形稱胞肉腫ニシテ細胞束ノ形成ハ著明ナリ。②陽性、三月二十五日示指頭大(生 **豌豆大。 10陽性三月二十三日死亡小指頭大** 存)。③陽性三月二十五日母指頭大(生存)。4)陰性。5)陽性三月二十五日小指頭大(生存)。6)陽性三月十七日死亡小指頭大。7)三月三 大正十一年二月九日移植,十匹ニシテ、移植片へ Nr. 106(7) Recidiv ナリ。(1)三月三日示指頭大ノ紡節ヲ見ル之ヲ摘

肉腫ニシテ三月末マデ生存陽性者三匹アリ。 之レヲ要スルニ本例へ十匹申八匹陽性ニシテ部八○%ノ移植率ヲ示シ發育程度モ佳良ナリ。組織的檢査ヲ行ヒタルモノニ例共ニ純

節ヲ觸ル、コトヲ得タレドモ途ニ消失シテ特陰性ニ終リタリ。 Wr. 118 二月十九日移植、十匹。移植片へ Nr. 116(7) ニシテ早期死亡者五匹アリ。他ノ五匹中二匹ハ三月十四日迄豌豆大ノ結

匹アリタレドモ其ノ後一週日ニシテ全部消失シタリ(以上第一圖拳服)。 Nr. 118 三月三日移植、十匹。移植片ハ Nr. 117(7) ニシテ早期死亡者二匹。移植後十六日目ニ豌豆大ノ結節ヲ生ジタルモノ三

得ラレタル例ヲ系統的ニ述ベタルモノナリ。其ノ外余ハ尚ホ各世代ニ於テ肉腫發生ノ例ヲ多數ニ實驗 セルヲ以テ參考トシテ次ギニ記載セントス。 以上ハ鼠癌移植經過中發生セシ純肉腫ニシテ而モ數世代ノ後裔ニ及ピ今日ニ至ルマデ引紆キ移植シ

ト楈スペキモ!ニアラズシテ、原景腫瘍ニハ決シテ混合腫(かるちのざるこーむ)ナル所見無シ。 研究ニ依レパ原漿腫瘍タル腺癌ノ壊死電附近ニ於テ癌和胞が紡錘狀ニ變形セシヲ目撃セシハ注意スペキ事實ナリ。然レドモ未ダ内腫 原體體編 | 我が病理學教室ニ於テ大正八年簽見セラレタルモノニシテ顯微鏡的ニハ腺癌ニシテ,本腫瘍ノ發見者タル山本(伊)ノ

第三世代ヨリ第四世代マデノ組織的所見詳カナラズ。 一二於テハ腺癌ノ像ヲ呈スルモノ少クシテ宣性胞電癌ノ像最モ多り、且ツ肉腫發生現象ノ發端ヲ見ル。

〇浅田・鼠瘍移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

色素顆粒攝収ノ度弱シ、腫瘍細胞ハ全然顆粒ヲ攝取スルコトナシ。②3(4)56(7悉ク陰性。 |但注射、最後/注射ヨリ十一時間ニシテ死亡ス。組織的所見、純肉腫ニシテ注射セル色素量少キ爲メ組織球及ビ結締織性細胞ト雖モ 性ニアリ。一月二十日再發結節豌豆大トナル、二月六日同大 ニシテ増殖ノ傾向ナシ。同日ヨリニ% ノりちおんかるみん〇•一五ヲニ ベキモノニシテ、細胞ハ東狀ニ種々ノ方向ニ走り従テ種々ノ斷面ヲ見ル。壊死窓ハ癌腫ニ見ルが如ク大ナラズ却テ小ナルモノが散在 摘出 Nr. 106 九匹二移植セリ。結節ノ表面ハ 平滑ニシテ鏡輸スルニ 典型的ノ純肉腫ナリ。人間ニ見ル中等大紡錘形細胞肉腫ニ比ス Nr. 102. 十一月十三日移植、七匹。移植片ハ Nr. 94(7)ナリ。(1)移植後三十日目示指頭大ニ達セルヲ以テ一小片ヲ殘留シテ大部

顆粒ヲトルコト無シ。の十二月二十九日豌豆大ニシテ摘出シテ Nr. 115 五匹ニ移植セルモ悉ク陰性ニ終レリ・組織的ニハ純肉腫ニシ 五、七日○・一五、八日○・二、九日四%○・二ヲ注射ス、翌朝死亡。組織的所貝ハ純粋ナル紡錘形肉腫ニシテ、腫瘍破濫ニハ組織球ア 頭大ナルモノヲ №: 117 十匹ニ移植ス組織的ニハ純肉腫ナリ。8)二月六日豌豆大ノ結節 トナル同日二% ノリちおんかるみん ○・| ナリ。組織的ニハ純肉腫ノ僕ヲ呈ス。細胞ハ小形 ニシテ囮形細胞浸潤多 り細胞束ノ形成 ハ左程者明 ナラズ。二月九日再登結節小指 十日示指頭大トナリシ結節ヲ摘出シテ 'Vr. 116 九匹ニ移植ス。其結節ハ表面 ハ平滑ニシテ硬度軟、割面ハ半透明ニシテ 壊死電極小 テ細胞束ハ種々ノ方向ニ走り割面ハ恰モ竹ヲ以テ編ミタル籠ノ目ノ如シ(第二圖(6)参照)。 ル墺死乃至戀性細胞アリ其附近ニハ色素顆粒ヲ有スル少數ノ組轍球ヲ見ルが大形ノモノ少シ。之レニ反シ紡錘形腫瘍細胞ハ全然色素。 ルノ外結締織母細胞亦多少増殖シテ微細ナル少數ノ色素顆粒ヲ取ル。腫瘍組織ニハ小ナル墺死竈散在シ核及ど胞體が瀰漫性ニ染色セ Nr. 106 十二月十三日移植、九匹。移植片ハ Nr. 102(ご) ニシテ、(1/2/3/4) 骨陰性。(5)早死。(6)陰性。(7)陽性,大正十一年一月

要スルニ本例ハ移植陽性率ハ四〇%ヲ示シ、發育住夏ニシテ拧純粹肉腫タリ。

ナリ。此者ハ二月十九日示宿頭大"摘出シテ Nr. 168 十匹ニ移植セリ。肉眼的ニハ中心部ハ多少軟化シテ粘液様トナレリ。 純紡錘形細胞肉腫ニシテ細胞東ノ形成ハ著明ナリ。所々ニ小ナル粘液變性ヲオコセル部アリ。其ノ後再穀ヲ生ジ長方形ノ母指頭大 Wr. 116 大正十一年一月十日移植、九匹、移植片へ Nr. 106(7) ナリ。本例ハ早期死亡者二匹、陰性者六匹。陽性者ハ(7)一匹

シテ二十五匹ニ移植セルモ皆陰性ニ終ル。組織的ニハ純紡錘彩細胞内膿ニシテ細胞突起長ク繊維性間質多クシテ東ヲ形成セルモノア

り。本例ハ莫ノ後再費シテ翌年二月七日構出シテ十七匹ニ移植ス陽性者へ唯一匹ニシテ純肉腫ヲ得タリ。

五、Nr. 5.(3) 移植後五十七日目ニ母指頭大トナル。摘出シテ十匹ニ移植セシモ皆陰性ニ終リタリ。組織的ニハ前者同様ノ純肉腫

ノアリ、或ハ多核巨大細胞ト見ルベキモノ少數アリ。 り。本例ハ組織的ニハ純肉腫ニシテ中心部ニハ可ナリ大ナル壊死竈アリ。此部ノ細胞ハ益く長紡錘形ニシテ、水腫性腫脹ヲナセルモ 移植後六十八日目鳩卵大トナル。摘出シテ十七匹ニ移植セルニ唯一匹 K. ro(3) ノ陽性者(純肉腫)ヲ得タルノミナ

本例ノ組織的所見へ混合腫ニシテ一部ハ肉腫、他部ハ癌腫ト見ルベキモ胞窠ヲツクラズシテ瀰漫性ナリ。摘出後再發ヲ生シ肉眼的ニ ハ豌豆大ノ結節ト米粒大ノ結節トノ集合ヨリナリ組織的ニハ前者ハ肉腫ノ像ヲ星シ後者ハ寅性胞窕癌ナリキ。 七、Nr. 16.(10) 十一月六日移植。移植片へ質性胞繁瘍ナリ。四十日目ニ母指頭大トナル構出シテ二十一匹ニ移植ス四匹陽性ナリ。

第八世代

セルモ其ノ後約二週ニシテ消失セシ艱アリシニ、十二月八日再ビ米粒大ノ結節ヲ生ズ同月二十六日同大ノ結節ヲ以テ死亡ス、純肉腫 一、K. to·(3) 本例ハ睾丸摘出術ヲ行ヘルまうすニ十月二十六日純肉腫 Nr. 5·(4) ヲ移植ス。三十日目ニ示指頭大ノ結節ヲ形成

ノ結節ヲ生ゼリ。組織的ニハ純肉腫ニシテ散在性ノ螻死竈アリ、紡錘形綱胞ノ間ニ少數ノ巨大細胞アリ。 11、0v. 5. C.(2) 本例へ卵巢縞出動物ニシテ大正十年二月七日純肉腫 Nr. 5 (1) Recidiv. ヲ移植ス。二十九日目ニ死亡シ小指頭大

後再發シテ五月十五日母指頭大二達スリちおんかるみん注射一%○・四ノ直後死亡。 ルニ僅ニ陽性者一匹(肉腫)ヲ得タルノミナリ。摘出結節ハ全部紡錘形細胞肉腫ニシテ細胞ハ短紡錘形ノモノ多ク、束形成ナシ、其ノ 三、Nr. 25(4) 大正九年十二月十六日混合型 Nr. 16.(10) ヲ移植セルニ翌年二月四日示捐頭大トナル。嫡出シテ三十一匹ニ移植セ

匹ニ移植シ陽性者五匹即六二%ノ高率ヲ得タリ。組織的ニハ瘍腫ト肉腫トノ温合型ナリ。三月十一日再費米粒大トナル。 四、K- 15-(4) 睾丸摘出動物ニシテ大正九年十二月九日混合型 Nr. 16(10) ヲ移植ス。翌年二月一日示指頭大ニ達ス、摘出シテ八

○淺田・泉癌移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

第五世代ニ於テハ肉璽發生ナシ。

第六世代 ニ於テ余ハ初メテ肉腫發生ヲ發見シテ大正九年十月九大ウキルヒョウ祭ニ發表セリ。

壊死竈アリ。瘍胞窠ハ全然ナシ。虚々ニ結締組織ノ増殖アリ。 一、大正九年六月二十三日移植、八月二十一日死亡。腫瘍ハ示指頭大ノ結節ニシテ全體紡錘形細胞肉腫ノ簾ヲ呈シ散在性ニ小ナル

混合型ニシテ結節ノ中心部ニハ壊死電アリ之レニ接シテ癌胞築層,其ノ外方ニハ紡錘形細胞肉腫層アリ。其外側ハ結締織即腫瘍被震 包圍セラル。肉腫部ニハ囮形細胞浸潤多ク且ツ紡錘形細胞ノ方向ハ不定ニシテ束ノ形成ナシ。 二、七月一日移植セラレタルモノニシテ移植片ハ腺癌ナリキ、移植後四十八日目ニ死亡シ、同日 Nr. 5. ニ移植セリ。組織的ニハ

節へ組織的ニハ混合型ニ屬シ、大部へ質性胞窠癌ノ像ヲ呈シ胞窠間結締織増殖强ク、一部ハ紡錘形細胞肉腫ノ像ヲ呈セリ。 三、七月十一日移植、移植後七十八日目ニ示指頭大ノ結節二個ヲ生ジ、之ヲ摘出シテ三十八匹ニ移植セルモ悉ク陰性ナリキ。其結

鏡七世代

細胞肉腫ノ像ヲ呈セリ。細胞ハ腫瘍被囊附近ニテハ之ニ竝行ニ走ルモ束形成ト見ルベキモノナシ、又特ニ中心部ニハ少數ノ單核巨大 一、Nr. 1.(1) 八月十一日移植、四十五日目ニ死亡ス。當日結節へ示指頭大ニシテ組織的ニハ處々ニ散在性ノ墺死竈アリ純紡錘形

一、Nr. 1.(3) 八月十一日移植,二十七日目ニ死亡ス。當時母指頭大ノ結節ナリ。組織的ニハ純紡錘形細胞肉腫ニシテ散在性ニ小 壞死竈アリ、細胞ハ長紡錘形ニシテ胞體突起長り束形成ヲ見ル。

或ハ寅性胞窠癌ト紡鐸形細胞肉腫トノ混合ヨリナリ。後者ハ槪チ腫瘍被鑑ニ接シテ存在シ細胞ハ之レニ直角ニ走ルモノ多シ。 二十一匹ニ移植セルニ陽性者唯一匹ヲ得タルノミナリ。本例ノ組織的所見へ混合型ニシテ中心部ニハ大ナル瘻死アリ。 K. 11.(4) 睾丸摘出動物ニシテ十一月六日移植ス。移植片ハ癌腫ニシテ移植後六十一日目鳩卵大ノ結節トナル。同日摘出シテ

シテ二十五匹ニ移植セルモ皆陰性ニ終ル。組織的ニハ純紡錘形細胞肉腫ニシテ細胞突起長り繊維性間質多クシテ東ヲ形成セルモノア Nr. 5.(1) 八月十八日移植シタルモノニシテ移植片ハ混合型ナル組織像ヲ有セリ。移植後九十八日目ニ母指頭大トナル。

清報・水文:リニューガン海洋市大学活用:「「世界活用です」、個別外で不可能でフィップで

而テ兩者ノ間ニハ判然タル境界ナシ。三個ノ小結節ハ共同ノ腫瘍被鑑ニテ闌マレ、其ノ鑑内ニハ變性ヲオコセル橫紋筋繊維アリ。 リナリ"然モ特大部へ壊死ニ陥レリ。殘存セル腫瘍細胞ハ胞皐ヲ形成セルモノナケレドモ囮形ノ細胞部ト紡錘形ノ細胞部トヨリナレリ 1、K. a6. A.(a) 五月十二日驀糎ヲ移植、十三日目ニ死亡シ豌豆大ノ結節トナレリ。組織的ニハ三側ノ米粒大ノ小結節ノ集合ヨ

キ部ト 織的ニハ混合型ニシテ大部ハ墺死ニ陷リ唯周邊部ニ健康腫瘍組織アリ。明ナル胞窠形成ナキモ囮形腫瘍細胞ナルが故ニ癌腫ト見ルペ 11、K. 30. B. 4. 五月十日移植、陽性ナルモ生長甚々緩慢ニシテ移植後百三十日目ニ死亡ス、結節ハ僅カニ小指頭大ニ過ギズ組 紡錘形腫瘍細胞ナルが故二肉腫ト見ルべキ部トアリ。

[1] K. 30. B.(2) 前者同様ニシテ七月五日母指頭大ノ結節ヲ到フテ死亡ス、所見モ前者ト大差ナシ。

第十二世代

窶瘍ノ像ヲ呈シ周邊部ノ一小部ニ紡錘形細胞肉腫像アリ。中心部ニ中等大ノ壞死鼈アリ。腫瘍被霾及ビ胞窠間結締組機ハ増殖盛ニシ テ肉腫組織内ニモ浸入シ爲ニ其ノ細胞ヨー々區別スルコト至難ナルモノアリ。 Nr. 54-(7) 七月四日移植ス移植片へ混合型ナリ。移植後五十日日ニ殺ス、常時母指頭大ニ逢セリ。組織的ニハ大部ハ寅性胞

鍾狀細胞トナレリ 接近セル部ニテハ精、短大ニシテ癌細胞ニ近似ス。即肉腫部ノ細胞ハ癌胞窠ヨリ遠ザカリテ邊縁部ニ至ルニ從ヒ吹第二狹小ナル紡 ・腫瘍細胞へ兩者共二小型ヲ呈シ特ニ肉腫部ノ細胞ハ甚ダ狹小ニシテ殆ド結締組織成形細胞ト異ナラザル狀ヲ呈ス。然レドモ癌胞窠 11、K. 32-(7) 七月四日移植前者ト同一ノ移植片ニシテ、三十日目ニ死亡セリ。時ニ結節小指頭大ナリ。組織的ニハ混合型ニシ

第十三世代

標編ヲ呈スルモノアリ。之レト混ジテ主トシテ邊緣部ニ紡錘形綱胞肉腫狀ヲ呈スル部アリ、而シテ兩者ノ間ニハ全ク判然タル境界ナ 出シテ移植ヲ行フ、十二匹申十一匹陽性(九一%)。本例へ混合型ニシテ、未ダ墺死電少ナク癌細胞ハ胞策ヲ形成スルモノアリ或ハ シ。本例ノ夾世代ノ結節十一例ハ悉り癌腫ノ像ヲ呈シ最早肉腫發生ノ現象ヲ見ルコトヲ得ズ。 1 G. 8.(3) ノ一例ニシテ七月十三日癌腫ヲ移植セシモノニシテ其ノ増殖力旺盛ニシテ僅ニ、十八日日ニ母指頭大トナル常日摘

〇漢田・泉橋移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

第九世代

消失ス。本例の依テ筋肉内ニ浸潤増殖セルラ知ル。 彩縹胞内庭ニシテ、風形細胞浸潤多ク所々ニ點々墺死竈アリ。細胞ハ配列雜然タリ。其ノ他腫瘍組織内ニ横紋筋繊維ヲ見ルモ横紋 一、Nr. 35+ Ar(3) - 大正十年二月四日総肉腫 Nr. 25-(4) ヲ移植ス ニ月十六日小指頭大ノ結節ヲ以テ死亡ス。本例ハ中等大ノ紡錘

四十日目)シテ鏡檢スルニ癌腫ト肉腫 トノ混合型ニシテ,然モ一部 ニ於テハ開者ハ判然境界 セラレかるちのざるこーむノ 像ヲ呈セ メテ陽性ナルヲ知ル。七月一日嶋卵大ノ結節ニ達スモ尙鼠體ハ元氣ニシテ其狀恰モ米儀ヲ背部ニ鬒ヘルが如シ、同日撲殺 テハ移行極メテ徐々ナリ。其ノ他癌胞窠内ニハ腺腔ノ痕跡ヲ示セルモノアリ。肉腫細胞ハ甚が長クシテ東ノ形成著明ナルモノアリ。 テ兩者ハ二點ニ於テ連合セルガ其ノ一ツノ連合部ノ境界ハ源キ結締織細胞膜ヲ以テ矧然ト割セラル、モ,之レニ反シ他端ノ連合部ニ 三、K. 24. A.(1) - 睾丸摘出動物ニシテ二月十三日癌腫ヲ呈セル移植片ヲ移植ス。移植片ノ發育ハ極メテ徐々ニシテ四月二十日初 結節・中心部ニへ壊死乃至空洞ヲ生ジ指輪ノ如クシテ約三分ノ二ハ實性胞窠稿ヲ以テ占メラレ他ハ長紡錘形細胞肉腫ナリ。而シ

第十世代

(第二圖(1)参照)

大部の壊死ヲオコシ腫瘍細胞ハ縮小セリ。 Nr. 50. B.(3) 五月十日移植ス。二十八日目小指頭大ノ結節ヲ以テ死亡ス。鏡橡スルニ混合型ニ鷵スベキモノニシテ,結節ノ

十三匹ノ陽性者ヲ得タリ(六○%)。組織的ニハ混合型ニシテ散在性ニ小ナル壊死證アリ。癌和胞ハ明ニ實性胞窠ヲ形成シ,之ニ紡錘 影細胞肉腫混合もり。腫瘍被蘂ニの結締組織ノ増殖盛ニシテ腫瘍質質問ニモ所々進入もり。紡錘形腫瘍細胞ノ形ハ中心部ニアルモノ 組織ト相混ズルニ重リテハ結締織成形網胞ナリヤ肉腫細胞ナリヤノ區別殆ド不可能ナルモノアリ。 **〜 頻大ニシテ癌細胞→ ノ属別困難ナルモノアルモ反之周邊部ニ至ルニ從ヒテ益く長紡錘形トナリ一方腫瘍被囊ヨリ增殖シ來レル結練** 11° Nr. 59.(7) 六月六日癌糖ヲ移植セラレタルモノニシテ僅ニ三十日目ニ嶋卵大トナレリ。同日摘出シテ二十二匹ニ移植セルニ

第十一世代

" K. 26. A.(2)

五月十二日裏種ヲ珍確、十三日日ニモニン危乏に、治市・トント・1歳り

井川

年.

	表数曲侧型			第			
移世植代			番號		的見所	次代移 世ノ植	率
第	1	Nr. I	6(10)	混	合型	43%	
六	2	23/VI	Tr.	純	肉腫	移植七	ズ
世	3	1/7]	Tr.	混	合型	57%	
10	4	11/7[Tr.	同	上	0%	
第	5	Nr.	1(1)	純	內種	移植セ	ズ
	6	Nr.	1(3)	同	上	同上	
七	7	K. 1	1(4)	混	合型	5%	
	8	Nr.	5(1)	純	为腫	2%	
世	9	Nr.	5(3)	同	Ŀ	0%	
代	10	Nr.	5(4)	同	Ŀ	6%	
	11	Nr. I	6(10)	混合	合型	5%	I
第八	12	Nr. 2	5(4)	純	为膧	3%	
	13	K. 1	5(4)	混	合型	62%	1
第	14	Nr. 45	5(2)	混化	全型	20%	
九世	15	Nr. 43	5(3)	同	上	14%	1
代	16	K. 24.	A·(1)	同	上	移植セフ	
郭	17	Nr. 50	.B.(3)	混化	型	移植セス	
+	18	Nr. 59	(7)	同	Ŀ	60%	1
世	19	Nr. 88	(2)	同	Ŀ	57%	1
代	20	Nr. 96	(7)	同	J.	移植セス	1
第	21	Nr. 94	(1)	混合	型		1
+	22	Nr. 94	(6)	同	上		1
	23	Nr. 94	(7)	純良	腫	14%	1
世	24	K. 26.	A.(2)	混合	型	移植セズ	1
	25	K. 30.	B.(4)	同	上	同上	ı
代	26	K. 30.	B.(2)	同	上	同上	
+	27	Nr. 54	(7)	混合	型	移植セズ	
=	28	K. 32	(7)	同	上	同上	
十三	29	G. 8	(3)	混合	型	91%	
+	30		(3)	混合	型	移植セズ	
PI	31	Nr. 74		同	Ŀ	同上	
+1	32	Ov. XII	-	混合	型	50%	

七月 ナ 其・シ り。 ノッテ カニ五%ナリ。 頻、其 -70 本例ハ第十二世代ノ後裔ニシテ其ノ第七世代 (Nr. 16) (第一圖參照)ニ混合型ヲ見、第八世代 (Nr. 關係 度、ノ デ)ニ於テ檢 ヲ、内 减、混 ジト合第、型 7 見 而モ増殖甚ダ微弱ニシテ第三世代以後 IN 九二 世、十 スルニ、 = 純 代、四 肉 以例 腫 後、純 八 二、肉 組 例 於腫 織 中 ティス 的 小例 檢 索ヲ行 次 唯、ナ 一、ツ、例、、 八世代 ア、純、 ヘル = 移植 ル・肉・ ハ腫、腫 試験ヲ ミ、發、瘍 ナ、生、百 リッラッス ノ移植ニ 行 各、十 ヒタ 世、例 代ニット内腫 成 IV 功 モノ五 イ、發 セ テ、生 2 Nr. 94 (7) 見、 例ニシテ其ノ陽性 7 ルルニ、後世 認メタルモ 三至 例 ノ三十 ル・ニ・ 李 T IV 45 1 = 從、例 EN

〇淺田・泉癌移植經過中ニ於ケル肉腫發生ニ就テ

第十四世代

逢ス。結節表面ニ外傷ヲウケテ厚キ痂皮ヲ以テ被ハル。組織的ニハ胞窠ノ明白ナラザル癌腫ト長紡錘形細胞肉腫トノ混合型ナリ。 Nr. 67(3) 八月十六日痛腫ヲ移植、八月三十日ニ分娩ヲナス、結節ノ堵殖ハ極メテ緩慢ニシテ九月二十八日死亡。小指頭大ニ

十二日死亡ス。組織的ニハ前者同様ナルモ細胞ハ兩者共ニ小形ニシテ、特ニ肉腫細胞ハ狹小ニシテ結締織成形細胞ト區別シ難キ程度 二、Nr. 74(3) - 八月十六日移植、同上移植片ヲ以テス、 結節ハ移植後一度小指頭大マデ増殖セシモ再ビ縮小シテ豌豆大トナリ九月

第十五世代

肉腫ヲ呈セリ。兩者ハ極メテ徐々ニ移行スルノミナラズ、中心部ノ小塻死意附近ニ於テハ癌細胞自身が紡錘狀ニ鑾形セルヲ見ル。 セルヲ以テ擴出シテ十匹ニ移植ス、五匹陽性(五○%)。組織的ニハ何レモ混合型ナルモ其大部ハ鼊樓艦ノ像ヲ呈シ一部が紡錘形細胞 之が移植ヲ武ミシモ次世代ノ結節ニハ最早肉腫發生ヲ見ザリキ。 卵巣摘出動物ニシテ 七月十二日移植ヲ 受ク此移植片ハ 胞窠間結締組織多 キ癌腫ナリキ。十月三日小指頭大ニ逢

四、總括及考按

まうすニ發見セシ例ト一致ス。然レドモ第二世代以後ニ於テハ却ラ實性胞巢癌ノ像ヲ呈シテ今日ニ至 腺癌ニシテ既 ラル・ノミ in デ尙高移植能率ヲ以テ移植セラル。肉腫發生ハ各世代各移植例ニ於テ必發ニ非ズ唯點々トシテ見 ノ寶驗材料ニ供シタル山本(伊)系まうす癌ノ原發腫瘍ハ日本産まうすノ項部ニ自然ニ發生シタル 二移植第二世代ョリ肉腫發生ノ端絡ヲ現ハセリ。 カモ多クハ純癌腫ヨリ直ニ純肉腫發生ヲ見ルコトナク其ノ間ニ可ナリ長キ癌腫ト肉腫 コハ一九〇三年レオ、レエヴョガ日本産

混合型時代ヲ經過スル

モノニシテ、

一般二純肉腫ヲ生ズルハ寧ロ例外二属ス。

セルヲ示スモノナリ。

キャルトラ・知 モ、來、 ラ 10 タッレ 14 ナ、 ストタ Æ . in 事 植 = 1 即, チャ 21 + 癌、 テト 塩 細、 7 胞、是、然、 見 ガッ 113 IVS 或、出、二、 不、現、余、 セ・ノ、般 明、 ノンシン願いニ 原、肉、瘍、肉 因、腫、二、腫 ニンノン於。ハ ョ、本、テ、癌 1) > 能、癌、腫 テト ヲ、腫、 -其、結、ヨ、比 毒、繙、リ、 3/ 一、移 性、織、 ヲ、性、度、植 减、 ト、肉、 來 浪》 セ、腫、 ン、形、 セト シャヨ、成、毒 場、 11 . ノ、性 合いモい現い 1 二、寧、泉、大 牛・ロ・ヲ・ `、見、 ズン 3/ テ ル、 1.1 20 形、皮、カ、 能、性、急、 的・ト・ニ・旺 穏、ナ、其、盛 化、ス、毒、 7 ト、ニ、性、 ナ、左、ノ、 ス、祖、滅、 ペンスン扱いク

組織的所見

化 长 特 當 及 接 未 IV 所 T 10 形 E. ス = 11 植 胞 # 獨 ılı 的 ナ 75 iv in " 7 性 W. 意 寸 本 癌 癌 紡 間 伊 腫 腫 細 ス 4 告 錘 61: 胸 ~ IV 勢 1 加 瘟 彩 男 狀 + 肉 2 旅 細 縮 7j 植 111 竹 -織 厘 ナ 厢 1 胞 " 本伊 男 糙 檢 1 1 -75 形 盛 索 成 化 見 約 世 功 勢 小家鷄軟 態 蓹 2 = 12 = 男(15) 的 增 狀 後 ~ " 3 in 3 第三 變化 7 殖 + V -1 見 越 # 11 11 ス Æ 家鶏 代 旣 世 骨 12 八第二 iv IV 1 代以 場 腫 H 11 -3 -原 合 從 於 原 紡 33 28 後 纖 節 1) 此 テ 4 發 發 師 1 北 n 腫 腺 = 形 維 = 71 余 ,, 述 5 增 蓝 癌 細 軟 1 部 例 骨 ズ 殖 1 1 1 胞 ~ 精細 内 垃 厕 17 肉 腫 也 21 彼 紡 死 腫 TIV n IV and world -篙 變 結 + 75 1 師 11 カデ 25 M M 37 粘 纖 如 w. 癌 縮 形 研 近 次 液 維 + 7 腫 繼 細 1) 鼠 乳 内 -肉 肉 維 胞 於テ 從デ 1. 腫 腫 癌 = 例 = 21 稱 肉 癌 狀 厢 --3 紡錘 11: 細 林 原 癌 腫 ス ŀ V 5 發 10 發 細 ナ 胞 h ズ M 4 間 ナ 厢 胞 余 V 形 可 1 細 111 12 12 150 75 ス ---侵入 , 粘 紡 腫 胞 移 in 3 33 植 111 節 混 瘍 肉 7 鍕 ŀ 中心 ナ 見 狀 7 性 3 合 E 腫 5 極 見 テ間 遂 腫 其 III P 瘍 ズ 部 部 13 ナ 3 -テ 質 21 1 in V フ = 1 1 粘 壞 癌 若 " 形 1 E 所 態 E. 液 屢 細 2 死 褔 滥 胞 腫 的 ゲ 肉 3 織 見 見ラ 腫 自 狼 附 ナ w 東 V (16) F 化 P 戟 身 被 沂 + 凝 in カ 25 E

0

九四

TI 25) IVS (2) ル、唯、 7, --第九世代(Nr. 再 11 發ラオ ラ・ 純、 ズ、肉、例 腫、 1 3 ニシラ斯ハ 純 肉腫 32) 1 2 2 Zr. ルト数度ニシテ第十一世代 肉腫發生ナク第十世代(Nr. 如キハ文献上 94(7) 例 ヲ得、 唯、 I 1 後者コツ其 ルリ (Nr. " 45) Ŀ 88) 混合 二於テ再 7' :1: 5 世代ハヤ E" ン 混 1 8 鼠、 合 型二 癌、移、植 一、植、 -例 例》二、成 7 ア、成、功 ル、功い かかかいますが、 其 1 小現、世 未、今、 = 1 其、及、 例いべい

ラ ti 例 故 再 植、 = ニンレ 發 度 法 " 7 + 7 純 才 考按 テ 肉 7 見 3 腫 摘 -17-3 iv 1 H テ 像 3/ Æ 移 明カ x 以テ現今第 7 植 12 무 ナ セ IV 2 " E 110 IV 高 ノヲ移 = 移 7 サ 至 植 Ŧi. V " 植 能 世 テ 18 李 ス 代 純 15 7 移 in = 肉 得 --及 腫 植 ルハ當然ナ T - 2 率及 1 " " 數 世 E" 然 代 再發移植 增 二及ブ V 殖 八再 " 11 1 移植 發結節 減 1 法ト 退 = ス ハ結節 成 1 12 增 功 3 殖 7. þ 摘 21 12 11 前者 出 7 V = ŀ I 際 -21 17 比 至 2 及 其一小 2 難 E. -18 般 3 2 片 テ 7 7 余 IE 才 残留 1.0 28 再 發 iv 3

性 今混 ナ V H 2 50 to 10 癌 率 ナ 1) 那 反 細 " 從 葉 7 細 胞 有 F ス 胞 w ガ 3 移植 移植 且 7 b N ŀ 組 -" 肉腫 長 前 和花 堌 率 鄉 時 述 (19 過中 殖 7 1 H = 71 發 見 如 111 = 4 IV 其 及プ 別シ 7 肉 ノ現 二十 1 3/ 腫 毒性ヲ 得ザ テー 象ヲ E ノソ 元氣比較的 四例 度肉 見ザ ル様ニ V 増シ = 中 腫 比 次世代 NY. 漸次ちふれれ ナ 形 3 1) IE 旺 成 盛 13 7 盛 二移植 30 ノ系統 見 12 ナ -り。 3/ 12 -テ -T 7 んち 於テ ラ 恶被質 林 行 4)5 直 ヲ 1 ~ 21 iv 助 見 IV るんぐヲ 移植 1 ·p (4) IV ·E 來ル 1. ノナニ -圓形 能 第 率ノ減退い勿論 7 然レドモ余 起シ 圖 細 例 オソキ 胞 ----細胞 肉 示 3 腫 テ ス ノ形 ノ研 發生 其 カデ 如 1 海ノ 陽性 究 -7 小 坍 = 就 平 殖力 依 ŀ テ説 率 均六〇 + V 李 219 ハ微弱 明 均 全然 胎 テ

紡 鍕 形 腫 惠 細 胞 1 變 形 せ V Æ 1 ŀ 思 料 セ 1)

ベッナッノン 數 紡 癌 キャル、後、 テ 斷 世 形 錘 厢 余 等、ヲ、世、ノ 走 代 細 THI 形 b 1 移 ナ、意、代、如 11 1) 胞 = 肉 成 ラ、味、ニ、 竹 且 植 肉 腫 功 3/ 腫 ンハスハ至い例 7 " 也 テ 1 セ 以 ルッルッニ 繼 ラ 狀 其 1 3/ モャニッテ テ 維 v 1 混 數 1 ノ、從、ハ 編 件 タ ナ 配 合 # iv 1) 列 型 代 ニッヒ、此 基 3 純 唯 シ、テ、東 7 質 Æ = = 多 雜 及 肉 腫 3 テ、次、形 w 伙 テ 第、成 籠 n 腫 瘍 ا ا 細 是 テ モリニリ 28 1 3 = 17 シ、此、著 T 胞 1) 目 テ 1 存 所 1) 時 ソ、型、明 1 ガ 在 謂 テ 然 レい的、ナ 加 代 也 10 結、ノ、 1) 3 東、 形 IV in -典 於 紡 + 形 ナ -繙、紡、 混 型 iv 此 錘 織、鎌、 成、 4 性、形、之、合 形 7 的 ガ 時 iv ナ、細、レ、型 現 1 故 代 細 肉 長 リ、胸、ヲ、 = = 腫 胞 21 セ、ヲ、要、モ ス 紡 癌 於 細 肉 錘 テ 細 パル形パストノ 胞 腫 初、成、ル、ニ 形 胞 21 28 7 iffi 紡 通 メンスンニンテ 肉 ナ 3/ テ 腫 w 方 ヨッル、肉、モ 錘 覧 此 ~ リ、ヲ、腫、移 h 癌 狀 ス ナ **分、見、發、植** 細 3 細 1 iv 稱 IV 1 胞 化ルル、生、後 胞 -想 センベンノン百 束 E 3 卽 テ 其 ル、ク、初、四 像 胞 20 。期、十 胞 窠 Æ 紡、 種 ス 1 體 iv 7 倘 肉、 録、コ、混、 K 作 突 1 癌 腫、 形、ハ、合、ヲ 1 細、其、型、經 方 起 111 細 發。 iv 性 胞 向 ナ 生 胞、肉、ヨ、過 27 "。 長 肉、腫、リ、セ 質 1 11 = 走 風 初、 腫、發、純、シ 7 -之レ 乏 味 3 期、 ハ生、肉、 V テ 狀、ガ、腫、 iv 3 7 -相 帶 於 ヲ、ト、及、 7 = 7 IJ テ ナ、皮、 E's 並 反 3 E' ス、性、其、 ラ 行 3/ テ 短 25

癌、化、巢、 份 細、シ、癌、 (7) 余 胞、テ、ノ、 前、橢、像、 Nr. 11 70 純 二、圓、 其、形、呈、 肉 94 腫 核、長、セ、 モ、橢、ル、 1 移 次、圓いガ、二 第、形、此、於 植 ニン次、ヨンテ -成 圓、ニ、リ、肉 形、ハ、遠、腫 功 叉、尚、カ、發 也 ハ、狭、ル、生 3 本 類、長、ニ、ノ 圓、ナ、從、最 例 形、ル、ヒ、初 1 ヲ、細、之、期 經 失・胞、等、ノ 渦 ヒ、索、ノ、像 中 長、又、主、ト 移 橢、ハ、ト、見 植 間、細、シ、ル 後 形、胞、テ、ベ 早 ヨ、柱、類、キ 期 リ、ノ、眉、モ 卽 紡、形、形、ノ チ 輝いト・ヲ・ヲ + 狀、ナ、呈、發 ニャリッセ、見 H 移、之、ル、セ B 行、レ、胞、 1) -シャト、窠、 摘 次、同いい即い出 ニ、時、次、チ、シ 斯、二、第、一、 テ ク、之、ニ、部、鏡 狹、等、自、ハ、檢 長、胞、己、明、セ ト、窒、ノ、カ、ル ナ、ヲ、形、ニ、 レ、作、能、質、例 ル、レ、ヲ、性、 細、ル、變、胞、

0

田

移

植

粹

通中

=

於

3

y

-

ナ

y

ŀ

7

1

41

+

7 V 唱 10 餘 道 ス IV E 計 1 10 此 云 如 + M 質 增 殖 1 唯 1 所 見 7 以 テ 肉 腫 發 生 1 前 提 ナ IJ 1 思 料 ス n E 1 + IV ~ 4

.0 生 胸 旦 111 + 活 代 17 期 余 E 1 力 1 此 排 = = ガ 於 1 加 於 Ш = 1 比 テ 7 如 テ 28 本 ラ 雜 腺 + 較 E 伊 的 40 然 尚 Æ 1 IV 1 微 1 點 形 弱 21 1 成 原 71 12 壞 ナ ラ 腺 機 發 死 瀰 IV 腔 能 腫 7 蔓 瘍 = 1 11 意 陷 性 痕 消 28 元 味 跡 1) b 失 易 ナ ス 7 3/ 來 作 w " 却 腺 7 腫 E m テ w 癌 質 官 瘍 1 E -細 --1 性 3 富 胞 1 7 胞 テ テ 單 = 1) 運 21 恰 層 萎縮 腫 癌 瘍 カ 或 7 1 發 以 腺 Æ 21 セ 育 癌 ラ 壁 IJ 甚 形 細 固 h 林 1ª 細 胞 有 阴 級 直 胞 71 -1 助 慢 固 像 ナ 肉 氏 ナ 腫 有 h N ノ質 n 腺 ナ 1 ナ 所 像 w ス 腔 驗 謂 胞 7 = þ t 不全 무 巢 至 7 3 形 IJ 有 ス **A** 型 唯 IV 成 セ 形 Æ 137 1 1 3/ 稱 性 細 1 數 毛 胞 T 質 例 1 ス ナ 肉 IV 1) 7 = 腫 Æ Æ 7 消 1 " 25 = 此 =' テ 失 見 細 移 1 3/ 21 胞 細 後 如 in 植

胞、境、斷 ス 肉、遇、二 IV 此 腫、ノ、苦 3 V 狀、如、ム 1 似 ト、何、場 = ナッニッ合 テ 3 非 リッヨッア 1) 得、リ、ル EF DEE ナ ルッテッハ 131 n ハトハト加 セ 21 髓 確、胞、論 ラ iv 樣 實、巢、ナ ナ・形・ 1) 癌 佃 ル、成、 = モンノング 3 3/ ノ、機、レ、 テ BF ナ、能、ヲ、ニ 此 リトヲト要トヨ 者 失いストリ 23 ヒッルッテ 細 ティニャハ 胞 圓、余、圓 1 增 形、ノ、形 細、鼠、細 殖 胞、癌、胞 旺 肉いい肉 盛 腫、移、腫 = 狀、植[、] 3 b テ トッニッ見 細 ナッヨッル ルッリッベ 胞 ノンテンキ 間 ミ、腺、カ 質 ナ、癌、或 極 ランハンハ x ズ、管、暗 テ 特、性、样 小 二、胞、癌 " 容、巢、 細 1 易、癌、見 胞 ニットッル 1 密 紡、ナ、ベ 錘、 リッキ ---形、更、カ 存 細、二、判 在

體、管 鼠 胞、 + 癌 1 3 出 * 1) 現 數 粉 7 例 4 見 亦 ス 紡 17 N 1) 錘 内 形 腫 乍 細 1 併 普 胞 本 肉 通 細 厢 P 胞 ナ ス ŀ y w 雖 形 然 モ 熊 其 IV 23 1 -B 本 余 形 21 細 小 7 胸 異 數 肉 例 = 腫 ス --於 n T ラ ラ Æ 1 28 ス 紡 = 2 7 テ 鍕 ラ 形 紡 ズ 細 鍕 3/ 胞 形 ラ 細 1 余 胞 21 肉 或 單、腫 n 核、 ナ 境 或、 1) 逃 多、 於 核、 巨

=

河河河 月 月 月月月

下り、業ノンノニコ

むト 1. 種 28 ラ 前 . E 癌 ナット 余ノ研 Ħ. 兩者ノ境界ナク次第二相互二移行スルヲ追跡 = 腫 獨 ス ŀ 稱 立 者 肉 究 + カラ 腫 ス ルニ足ラズ。 增 ニョレパ、 トノ混合型二於ラ兩者ノ境界判然タルヤ否ヤハ 確 像ヲ呈シ、 殖 カニ移行セシ ス ルヲ以 コハ 恰カモ テ其ノ境 肉腫 例ヲ述ベタルモ。一方二於テハ其ノ境界判然トシラ 南 發生ノ出發點ナル 者ガ 界 ノ判 各自出發點ヲ異ニ 然 × iv コト シ得レドモ肉腫發生後時日ヲ經過スルニ於ラハ兩 カ否カニ 多キハ寧口當然トスベク之ヲ以テ 2 IV 肉腫 ヨリ差アル ゔ 如 發生ノ説明ノ参考ト + 觀 7 E ルモ ノニ 1 3 ラ其 亦少 かるちのざるこし ナ Æ 出 兩 一發點 カラ ナ IV 者ヲ全然異 2 附 近二

ナリ 以テ當然トスベシ。 瘍ナリセ 所 見即 混 合 チ 兩 次世 者ノ移行 1 結節 代 然ルニ = 3 於テ リ移 像 = 植片ラ 余 ١١ 遭 グノ研 遇 境 界 ス 判 究セシ結果二依レバ再ビ 採 n ハリラ 然タル ヲ常ト 移 混 2 植 合 シタ 純 腫 肉 IV 71 坝 或 腫ヲ得 合二 11 兩 癌 於テ、 IV 者 腫 迄ニハ長キ間混 カ 分離 -逆戾 兩者 七 リス 3 カブ 各自 純 IV 癌 合型時 71 腫 出 或 或 發 點ヲ 11 21 代ヲ 純 例 M 異 肉 發 經 腫 -4 7 7 IV 4 ス 1 ルモ 悪 最 ズ 初 IV 性 期 7

癌腫ト之レョリ發生セシ肉腫トノ性狀比較。

V " 3 3 植 癌 iv h -面ヲ見 アリテ 壞 育 ハ其ノ表面 度 w " 75 ノ比較 如 3 テ且ツ散 20 " 次二與 前 颗 粒 -狀ヲナ 述 在 味 性ナリ ~ 7 久 " ルハ ス ヲ普通 壞死竈 之レ 肉 1113 ニ反シ癌 ŀ 的 ス ノ比較 = 25 特 結 腫 = = 節 1 癌胞 或八混合型 1 表 テ 肉 1 m 間 腫 11 ハ長時 例 間 質 腫 1 E 1 -日存 增 7 1 " -殖 在 テ T セ リテ 21 3/ IV 常二 テ Æ 大ナル結節 1 比 4 較的 P ナル IJ テ -期

二、呈、失、胞、 紡、セ、ヒ、索、 輝、シ、テ、ノ、 形、モ、間、末、 細、ノ、質、端、 胞、ガ、結、 111 肉、極、絲、盆、 腫、メ、織、 30 ノ、ティ織、分、 像、徐、維、 VI ニッタットッ テッ 移、二、親、恰、 行、自、密、 710 スト己トニトモト ル・ノ、混、扇、 ニ、形、変、ノ、 至、能、存、要、 レ・ヲ、在、狀、 リ、改、ス、ニ、 (第二圖 變、ル、放、 シャニ・射い 途、至、シ、 ニ、ル、擴、 (3) ハッヲ、擂、 (4)其、見、シ、 (5) ハルト今り (7) 組、換、ヤ、 处 織、言、癌、 M ガンス・細い 全、レ、胞、 川山 ノマラ 217 l·、始、胞、 シャメン錠い ティハングン 全v 朋v 111 然、カ、細、 癌、二、胞、 性、實、索、 造、性、ヲ、 構、胞、作、 ヲ、災、ル、 消、癌、ノ、 失、 ノ、機、 シ、像、能、 塗、ヲ、ヲ、

綿 ~ 7. 合 殖 IV 組 3/ in = 12 於 常 締 織 テ E 惟 及 織 テ = 章 基 T 成 25 ٰ 7 參 癌 形 腫 iv 7 -細 寫 Æ 細 Æ 木 囊結絡 胞 1 胞 例 3 ŀ 23 1 即 增 場 1 12 チ 7 lini lini 殖 組 合 結 -7 3,11 20 織 = 締 1) 木 n 3 於 織 結 增 ---難 4 性 見 ナ 統 殖 iv ナット 計 組 IV シテ癌胞巢内ニ樹枝狀ニ侵入 75 = 絲 如 3 3 b + 1 1 テー 侵入 树 P 說 り。 厢 7 度生 部 發 抱 此 生 -ケル學者多 於テ 體 ノ本 1 染色ラ 如 容易 能ヲ + 現 以テ 行 象 -" フニ 7 形 癌實 以 態ヲ 2 余 於テ 7 テ -E n 肉 約 亦 質 八容 7 腫 鍕 腱 1 實驗 發 狀 刺 3 鼠 易 4 -戟 變ジ、 セ = 1 癌 ---り。 H 前 移 因 提 植 1 7 誤 BF 質 或 ihi IV 間 驗 V 25 ŀ 71 證 中 們 IV 3 E 左 此 テ 癌 結 ŀ + 胞 縮 7 IJ 幼 如 巢 織 知 1 HI 牛 1 稱 增

似 於 其 1 N 細 中 ラ 次 知 iL 胞 22 -部 幼 癌 11 若 此 周 -腫 邊 於 種 細 ナ 部 テ 1 胞 IV 肉 癌 結 1 21 時 胞 縮 腫 腫 瘍 斯 織 = 1. 普 整 -成 3/ テ 接 形 -通 近 3 細 -1 見 " 形 次 胞 7 in P IV 1 處 E = 1 æ 從 温 w0 1 1 331 多 ٤ 在 3 テ 1) 7 1) 至 徐 テ 雛 Æ 甚 從テ k 25 7 紡 n = IV 細 細 此 錘 = 長 細 小 1 1 胞 如 þ 7 ---り。 ナ b 3/ + リテ 7 雅 細 且 然 胞 E ッ 粘 其 V ガ 縮 1." 紡 1 核 方 織 錘 Æ 成 K 此 結 形 形 E 縮 1 細 胞 細 如 組 胞 胞 體 丰 織 肉 場 1. 21 カブ 腫 LL. 增 大 合 7 别 殖 形 = -於 3 3 3/ 成 難 侵 テ ラ ス 癌 入 7 -E IV ナ 細 腫 3 = 胞 瘍 來 於 結 w ラ = 至 近 節 =

7

同注射ス後ニハ四%ノ色素液ノ腹腔内注射ニモ堪エ得ルニ至ルモノアリ。 アラザレバ中毒死ヲ兎カレズ。初メ二%/色素液○•一ヲ以テシ"かるみんニ對シ多少/免疫性ヲ得ルニ及ピ次第ニ量ヲ増シテ毎日 尾髀脈ト雖ドモ殆ド不可能ノ事ナリ。色素液ノ注入量ハ體重十瓦ニ對シ○•一週ヲ以テ目標トナスベク"カトル少量ヲ以テ始ムルニ

其ノ出現スル楊所ハ主トシテ腫瘍囊及ピ墺死癥附近ニシテ前者ニハ小形ノモノ多ク、後者ノ墺死竈附近ニ於テハ大形ノ組織球多シ、 充分ノ點アリ、 結締織成形細胞ハ明カニかるみん顆粒ラ攝取ス。組織球ハ本鼠癌ニアリテハ多歎ニ存在スルモノアリ或へ少敷ナルモノアリ。かいいいいいいいいいいいいい |胞ノ核及ビ胞體ノミハ瀰漫性ニ赤染ス。之レニ反シテ組織球性細胞及ビ胞巣問結締織又へ腫瘍遽結締織ノ増殖セル幼若ナル細胞にいいいい。 其ノ所見 - 余ハ少クトモニ%ノ色素液ヲ三囘以上長キハ七日間注射シ得タル例ノ所見ヲ逃ブルモノニシテ一日乃至二日位ニテハ不 要スルニ本來ノ癌細胞ハ勿論。紡錘形肉腫樣細胞モ全然かるみん顆粒ヲ攝取スルコトナク。唯壞死乃至慢性ヲ起セルい。

而テ攝取セル顆粒ハ大小色々ニシテ一般ニ多数ナリ。是等組織球ハ壓く壊死竈ヨリ腫瘍實質内ニ侵入セリ。然レドモ癌胞巣内ニハ侵入 リヤノ區別不可能ナリシ場合二於テ此生 シ、一方ニ侵入ヲ受ケタル腫瘍細胞ハ爲ニ形體ヲ紡錘狀ニ變ジ、其ノ境界部位ニアリテハ果シテ結締織成形細胞ナリヤ或ハ癌細胞ナ 細胞へ幼者ナルモノホド多量ニ微綱ナル「カルミン」顆粒ヲ攝取ス。余ハ二三ノ例ニ於テ問質結締織増殖シ腫瘍綱胞間ニ樹枝狀ニ侵入 照著明ナリ。然り而テ余ノ經驗ニ依レパ一般ニ組織球ハ腫瘍ノ增殖力微弱ナル場合ニ多數ニ存在スルモノ、如シ。增殖セル結締織性 スルコト不可能ニシテ唯所謂紡錘形細胞肉腫ノ部ニ於テノミ遠クマデ侵入シ、爲ニ色素顆粒ヲ攝取セザル此ノ紡錘形腫瘍細胞トノ對 體染色ニョリテソノ本性ヲ明カニスルヲ得タリ。

同、 ル肉腫ノ 三色素顆粒ヲ攝取スベキハ當然ノ ダ真正ナルまうす純 (粒ラ攝取スペキハ當然ノ理ナルニ余ノ例ハ全ク之レニ反紡錘形細胞ガ若シ夫レ真正ノ結稀織性細胞ナリセバ生體 肉腫ノ生體染色ノ機會ナキヲ遺憾トスルモノナレドモ スルモノナリ。 染色ニョリテ結綿 七、鼠癌經 成形 に過中二出

五、結論

ハマウス癌移植經過中多數ノ肉腫發生例ヲ實驗シ其ノ內一例ヨリハ爾後數世代ヲ經テ現在ニ及ベ

〇淺田・風痛移植經過中二於ケル肉種發生二就テ

二其患部二大ナル壌死竈ヲ生ジ、軟化シテ空洞ヲツクリ易シ

生體染色

リラ腫瘍細胞ノ顆粒攝取ノ機能有無ヲ檢スルニ如カズト信ズレバナリ。 地ナシト信ズルモ尚之レヲ確メンガ爲ニりちおんかるみんニヨル生體染色ヲ應用セリ。是レ腫瘍細胞 ガ結繙織性ナリャ或ハ上皮性ナリャヲ區別シ得ベキ最上ノ方法ハ、現今醫學ニ在リテハ生體染色ニ 清野博士(ワ)ノ著書ニ就テ見ルニ生體ニ於ケル腫瘍細胞ノ色素ヲ攝取スルヤ否ヤノ性質ハ或程度迄ハ其ノ發生母細胞ト同一 以上論ジ來レル事項ニヨリテ余ハ鼠癌移植經過中出現セシ肉腫ノ本態ノ上皮性ナルコト殆ド疑フ除

出 鍾形細胞肉腫ニかるみんニョル生體染色ラ行ヒ腫瘍細胞ニハ橈子原形質中ニ微細ナルかるみん顆粒ヲ有スト云ヘリ。 ルマデモナク,色素顆粒ヲ攝取シ得ル癌腫!存在シ得ペキ可能性ハアルモ(例ヘバ肝,腎ヨリ發セシモノ)今日迄研究セラレシ範圍ニ |肉腫ニ就テノ此種研究ニ接モザルモ同様ノ色素顆粒攝取ノ機能ヲ有スルコト敢テ想像スルニ維カラズ。従ツテまうす癌移植經過中ニ 攝取色素顆粒ハ甚微細ニシテ此兩種細胞ヲ生體色素攝取如何ニヨリテ區別スルコトハ困難ナリト,(六)加藤氏(9)ハ可移植性家兎紡 ン案 らつて肉腫ニ•とるいぢんぶらう ヲ 注射セルニ腫瘍細胞及ビ結締織成形細胞ハ共ニ色素ヲ 攝取スルコト極メテ芝シク 而カモ此 顆粒ヲ攝取ス、(三)、ラウス氏系軟骨肉腫モ同棲陽性。(四)、可移植性家鶏繊維腫(加藤氏系)同樣陽性、(五)、藤繩氏(8)ハエンゼ 發性家鷄肉腫,長紡錘形細胞ヨリナリ 色素顆粒 ヲ 攝取ス,(二),可移植性家鷄肉腫(藤浪、稻本菜) ハ十七世代ニ於テ檢セシニ色素 爲メナリ。サレド肉腫細胞ハめぜんひー む細胞ノ性質 ヲ 具備シ色素ヲ振取スト云フ。清野氏ノ研究ニヨレバ肉腫ニ於テハ(一)、原 ヲポスモノナリ。今日迄上皮性腫瘍細胞ニシテ色素ヲ攝取スル性質アルモノハ發見セラレズ、コレ恐ラク發生母細胞ニ此ノ性質無キが ハ色素顆粒ヲ攝取セシモノナシ。 現スル肉腫が間質結締織ヨリ費生セシモノナラバ必ズ色素顆粒ヲ振取スベキナリ。癌腫ニ於ケル生體染色ハ此所ニー々文獻ヲ揚

・四%1りちおんかるみん審液ヲ造り、之レヲニ%ニ稀釋シテ腹腔内法射ヲ行フモノニシテ、まうす ニ於テハ靜脈内注射

二於ラ岡部學士ニョリテ移植セラレ種々ノ研究材料トナレリ。 **尚數世代ノ移植ニ成功セシ余ノ純紡錘形細胞肉腫(肉腫狀癌腫)ハ現今(七月)ニ至ル迄當病理學数室**

・髪制肌及は腫乳脈盤另ニ書フル個値ニ夢ラハ余ノ今後ノ研究資料トナセリニ

ニ滿腔ノ謝意ヲ表シ、本風癌發見者タル同僚山本伊勢男氏ノ死ヲ悼ム。 最後ニ稿ヲ脫スルニ當リ本研究ニ對シ御懇篤ナル御指導ト本稿ノ御校閱トヲ賜ヒタル恩師田原教授

引月文章

derselben Mamma, Centralblatt, f. allg. Path. 1906. Nr. 10. 11) Ehrlich und Apolant, Zur Kenntnis der Sarkomentwicklung 大正 1.年. 六六三頁· 8) **漫田鴛鴦**,南京風癌 7.移植武驗就中生殖腺 7. 關係 = 就 子·日本海理學會會誌,第十一年· 9) **漫田鴛鴦** 6) 山本伊勢男、大正九年四月癌研究會發表: つ) 漫田義為、移植性腫瘍=腸スル質験: 福岡密料大學雑誌: 第十三巻:第五號 1) Leo Loeb, Uber Entstehung eines Sarkoms nach Transplantation eines Adenocarcinoms einer japanischen Maus. Zeitsch. f. und Bindegewebe bei den Mischgeschwülsten der Haut und der Speicheldrüsen und über das Eentstehen der Karzinosarkom. Berliner Klin. Wochensch. 1907. Nr. 38, 39. 4) **神直助**, 鼠癌移植經過中=熒生セル肉腫=就テ・癌大正五年・5) **William 王**. Kl. Wochensch. 1905. Nr. 28. S. 871. 3) Bashford, Murray und Haaland, Ergebnisse der experimentellen Krebsforschung. Krebsforsch. Bd. 7. Heft r. S. 80. 2) P. Ehrlich und H. Apolant, Beobachtungen über maligne Mäusetumoren. Berliner Beit, z. path. Anat. u. allg. Path. 1908. XLIV. S. 88. 13) Ribbert, Das Karzinom des Menschen 1911. S. 376. 14) In hei Carcinomtransplantation. Centralblatt f. allg. Path. 1906. Nr. 13. 12) Krompecher, Uber die Beziehung zwischen Epithel 夏編移植經過中ニ於ケル肉體發生ニ就テ・大正十一年編研究會赞表。 10) Schlagenhaufer, Carcinom und Riesenzellensarkom Woglom, Significans of the Cartilage in a Carcinochondrosarkoma of the mouse. The Journ. of can, research. Vol. III. 1918: **播·第十五年·第四册·三九五頁·市川厚一附譜· 17)清野謙次,** 生體染色研究/實況及其檢查術式: 天正十年· 18)**藤譚喜代 羅竹男**, 京都醫學維講,第十六卷,第一頁,大正八年。 - 15) **山本伊勢男**, 大正十一年四月,癌研究會發表。 - 16) **フィビゲル**, 夏內國ノ移植及增殖ニ關スル知見報道·京都醫學雜誌·第十六卷·第九號·大正八年·19)加藤作男,可移植性家兎肉糧ニ

見 IV n 内 腫 ナ 移 1) 植 = 成 功 t り。 之 I. 1 IV IJ 9 t 7 末 ラ 2 ノ鼠 癌 例 T iv 1 = = 2 ラ 未ダ 他 -7

泥 7 セ 17 = 1 遂 " y 7 3/ 癌 sarcomatodes 屢く ゲ ŀ 植 ŀ 腫 ŀ 17 信 能 云 1 ナ 1 意味 垄 7 B n ス ス 肉 = IV 及 撃シテ E = 腫 過 過 , Æ E' 發 -使 1 增 生 + 100 + 以テ ナリ。 殖力 用 肉 アラ ズ。 べ、 1 現 腫 也 肉 狀 余 象 5 其ノ本態 べ。 , 關 癌 然 腫 -1 v 假介 カモ 就 腫 係 形 發 次 -能 生 ラ専 w 3 場合ア 余 學 肉 1) 25 1 命 依然 腫 前 的 ラ 3 名 信 テ 駆ナ 狀 n 並近 ス 癌 鼠 7 = 2 in 17 5 ~ 呈 4 y 細 癌 E 2 余 + 胞 移 體 þ ス ~ V " 植 ナ 染 7 13 モ iv 25 之レ ~ 1 リト云 經 色 3 w -E ナッ (Carcinoma sarcomatodes n 其 過 H 間 = 7 實 等 質 中 3 " IV 結 意 フ 出 肉 21 ti 1: 云 = 厢 味 現 腫 縮 アリ。 皮性、 刺 せ 7 7 瘟 ナ ズ 如 細 戟 w in 肉 說 2 7 胞 カブ 卽 源 腫 故 ラ 故 1 1 一元說 ヲ上 固 根 チ 1 -= 本 結 據 形 癌 有 一皮性 態 稲 成 細 1 25 鼠 ナ 機 胞 織 せ 11 ッツ。 Ŀ 性 ラ 能 癌 自 = 發 皮性 7 身 7 ナ - mail V 3 檢 於 17 カゴ IJ ŀ 唯 テ ラ iv ナ 3/ 間 單 粘 思 肉 IV 之 料 盾 縮 7 腫 ŀ V ス 增 " 形 織 態 性 7 = 12 殖 Carcino-的 加 部 ガ ス 12 3 7 -3 12

5 v 倘 13 n 21 之レ 7 根 據 = 或 1 3 21 テ Ŀ 唯 皮 性 y 可移 E 1 存 植 性 在 鼠 10 ++" 癌 = w JE + 5 -疑 ズ人 7 容 間 厢 IV 瘍 8 Æ = 於テモ 敢 テ 空 想 形 ナ 態 的 5 3 -1 内 信 腫 ズ ナ y þ 診 t

7 毛〇 御 附。 著っ 高 言。 二〇示 7 性のリ 年 成〇夕 74 着コル H ヲ ロニ 癌 得。深 研 究 タの謝 NOZ 70 -以。同。 於 テの反の 7 益。應。 上。本。 皮。來。 性っノの 7 ナの鼠の 验 ルの癌の 表 根のトロ 七 據。同。 3 ヲの様の 確○此○ 管。 vo 30 = 0 與 りつ -to 教授 1) 0 形。 0 成。 7j 也 ラ。お V きし 20 10 20 E だり NO お きし 所。謂。 也 紡っ反 1: 1 錘。 7 せ 形。 反 細。試 應 自 肉のス 身 腫っべ

施

及

肉

M

細胞

181

=

對

ス

N

個

值

, =

就

ラ

21

余

1

4

後

1

研

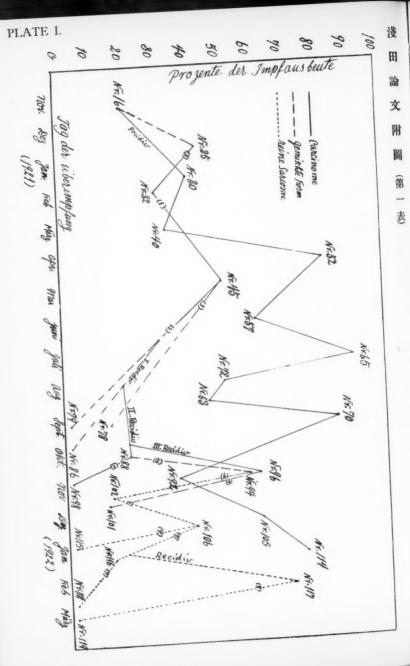
究資料

F

+

也

1)



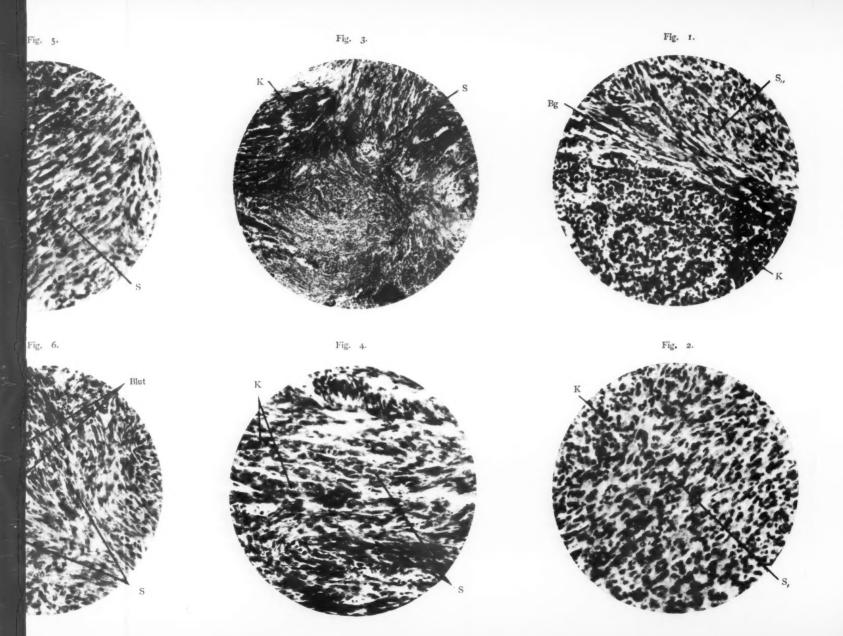
(Asada)

附加說明

爲メニ終始艦鷹ノ形態ヲ保有セシ Nr. 30 ノ移植經過ヲ揚ゲ。剛者ハ Nr. 16(第七世代)ノ後裔ニシテ、横軸ハ移植年月日ヲ示シ繰 軸へ移植能率ラ示ス。 二表、南京風橋ヨリ發生セシ純肉腫ノ敷世代ニ及ブ移植ニ成功セシ例 Nr. 25 ノ移植經過ヲ示シ且ツ之レト移植能謝ヲ比較センか

第二表

- (エ)K. 24- A.(I) 二百倍擴大、癌腫(K)ト肉腫(S)トノ混合型ニシテ、酮者ハ薄キ結結織障壁(lig)ニテ境セラル。本例ハ移植後百四 十日ヲ經過セルモノナリ。
- (2) Nr. 88(2) 二百倍擴大、鬢生初期ニ於ケル紡錘形細胞肉腫(5)ニシテ、所々ニ縞胞巢(K)ヲ混ユ。
- (3) Nr. 96(7) 五十五倍擴大、南京鼠癌ヨリ發生セシ紡錘形細胞肉腫ノ最初期ノ像ニシテ、(K)癌胞巣(S)肉腫狀部。
- (4)同上、二百倍擴大、辣長トナレル癌網胞柱(K)ノ細胞ハ徐々ニ自己ノ形態ヲ紡錘狀ニ變ジ扇ノ要狀ニ放射遊離シテ肉腫狀(S)ト
- (5) Nr. 94(6) 二百倍擴大、囮形ノ癌細胞(K)ハ徐々ニ紡錘狀トナリ肉腫部(S)ニ移行ス、
- (6) Nr. 106(9) 敷世代移植セラレタル典型的ノ純紡錘形細胞肉腫ニシテ第二圖(2)ト比較シテ見ルでシ。
- (7)Nr. 96(7) (4)へまときしりんえおじん覆染色標本(K)狹長トナレル癌胞巣(5)癌細胞自己が紡錘形トナリ肉腫狀ヲ呈ス。
- (エ) Nr. 88(2) 生體染色。へまときもりん核染色。油浸、紡錘形肉腫狀細胞(S)ハかるみん顆粒ヲ攝取スルコトナク此ノ腫瘍細胞間 ニ遊走シ來レル組織球(His)ハ多數ニ攝取ス。
- (2)Nr. 96(2) 生體染色,同上實性胞巢癌ニシテ胞巢間間質ハ增殖セリ,(K)癌細胞(Fill)結締織成形細胞



多田命文付副第二号

Fig. 7

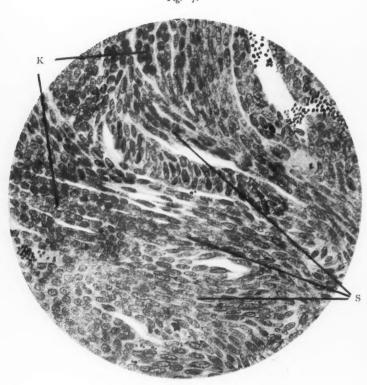
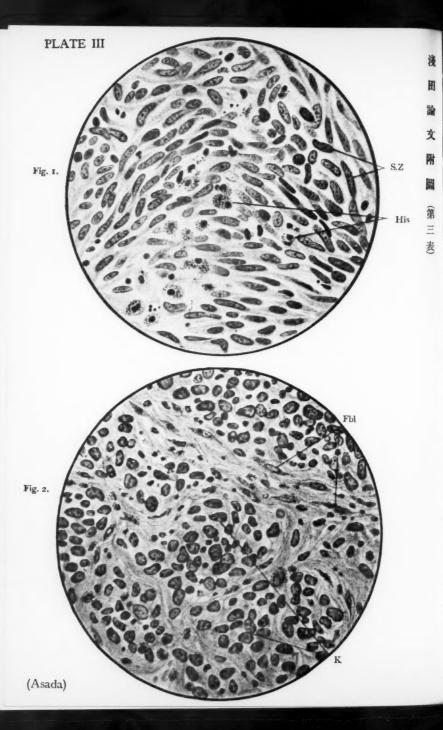


Fig. 3. Fig. 5. Fig. 4. Fig. 6.



淺田論文附圖(第三表)

鳥類ニ於ケル諸種脂肪質試食試驗成績報告(第三)

らのりん試食ガ可移植性家鷄軟骨腫ノ移植増殖ニ及ボス影響ニ就テ

京都帝國大學醫學部病理學教室

醫學博士 赤 松 信

ウオ

第一章 緒 論

第一 移植材料二就テ第二章 研究方法

イ 肉眼的所見

中 顯微鏡的所見

第二 試驗方法

第三章 試驗成績

イ 肉眼的所見

p 顯微鏡的所見

附 對照例所見

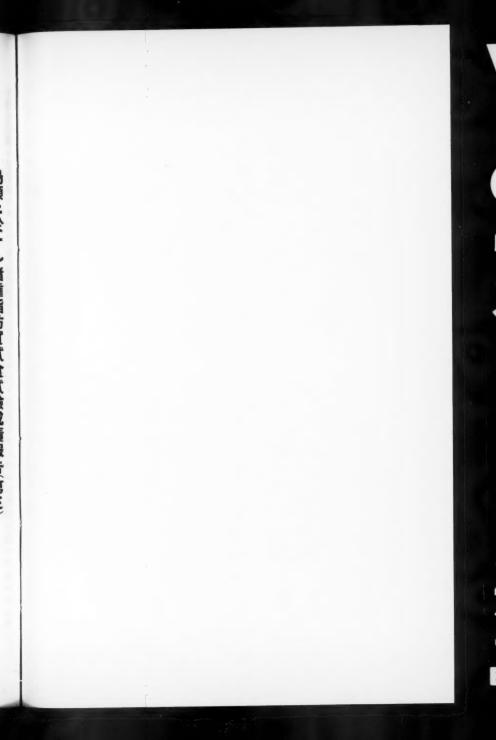
ハ試験成績總括

日章 可移植性家鷄軟骨腫ノ變態ニ就ラ

紀

ル所アリタリ(京都醫學雑誌第十七卷、癌第十四年)。今茲ニ其後ノ研究成績ヲ一括シテ第三報告トナ ル家鷄血液上ニ於ケル諸種ノりベみーノ發生ト、家鷄個體ニ於ケル體質的傾向ノ轉換トニ就ラ研究ス 從來余ハ鳥類殊ニ家鷄ヲ材料トシテ、諸種脂肪質試食ニ由ル新陳代謝試驗ヲ機續シ、 此場合ニ於ケ

〇赤松・鳥類ニ於ケル諸種脂肪質試食試験成績報告第三



家鷄軟骨腫ノ定型的ナル組織像ヲ有スルモノナリ。 余が試験ニ供シタルモノハ、其移植第十一世代ヨリ別ニ分系セラレタル腫瘍種ニ鷵スルモノニシテ、

割面,平滑ニシテ色溪、灰白白色ヲ呈シ、且,全面ニ亙リテ、束狀ヲナセル細繊維群ニ依リテ腫瘍組織ハ大小ノ懲狀ニシテ灰白白色 何所ニモ物質缺損又へ痴皮樣物質ノ附著ヲ認ノズ。且、腫瘍組織トノ癒著へ認メ得ラレタルモ、筋肉層ニ對シテハ殆可移動性ナリキ, テ石灰化、壊死乃至軟解證等特殊ナル所見無シ。 ナル島嶼狀ノ部分ニ別タレタリ。而シテ此等ノ部分ハ硬度更ニ鞏ニシテ軟骨ヲ觸ル、が如ク、乳白白色ノ光澤ヲ帶ビタリ。割面ニ於 ハ蛩ニシテ軟骨性硬,且,全部ニ亙リテ殆同一標ナリ。外面,灰白白色ニシテ、腫瘍ノ外表ヲ被ヘル皮膚ハ著シク伸展セラレタルモ, **肉眼的所見**。腫瘍組織へ限局性ニシテ、周団トノ境界へ鋭利ナリ。大サ拇指頭大ニシテ、表面平滑ニシテ凸凹ノ狀ナシ。硬度

腫瘍細胞ハ形極メテ多様ナレドモ、星芒狀乃至紡錘狀ニ近キ形態ヲ有スルモノト、比較的大型ニシテ頬多角形•不正橢圓形乃至略、圓 型ニ脳スル細胞群が認メ得ラル。各細胞間へ同質性基質ニ由リテ境セラレ、且、此部ハ特ニ强ク「ヘマトキシリン」ニ染著セラル。上 形ナルモノトアリ。前者ハ竈狀ニ分タレタル腫瘍細胞群ノ周邊部ニ多ク、後者ハ其中心部ニ多ク認メラレタルモノナリ。兩者ノ移行 ノ各種細胞群中ニハ石灰化セル像ヲ呈セルモノヲ所々ニ認メシメタルモ其範圍ハ極メテ局限セラレタリ。 ロ、顕微鏡的所見。腫瘍組織ハ軟骨組織ノ特殖者シク、結締織繊維束ニョリテ不規則ナル大小ノ島嶼ニ分々レ像ル象ヲ皇セリ。

モ著シカラズ。何所ニモ肉腫性ト認ム可キ所見無シ。 間質結締織ノ大部分ハ繊維性ニシテ、唯所々ニ不正紡錘形細胞ヲ散見セシムルニ過ギズ。血管ハ一般ニ其敷少ク、且、血球ノ充盈

及ボス家鷄ノ個體的要約ノ影響ヲ研索スルコトハ敢ラ徒爾ナルニ非ラザル可シ。 腫乃至纖維性軟骨腫ト殆ド全ク同様ノ性狀ヲ有スルモノニシテ、所謂良性腫瘍ニ屬セシム可キモノナ ドモ、旣述ノ如ク、該腫瘍組織ハ其生物學的性質ニ於テ特殊ノモノナリ。從ツテ此家鷄腫瘍組織ニ 以上余ノ移植材料ハ、家鷄ニ於ケル定型的軟骨腫乃至纖維軟骨腫ニシテ、人體ニ於ケル定型的

第二 試驗方法

〇亦松・鳥類ニ於ケル諸種脂肪質試食試驗成績報告(第三)

ント 其足 ラザ 12 所 21 更二後日 が 索ヲ待チラ補遺スル所アル可

二章 研究方法

移植材料二就

移植 或 代 度 ナ 例ニテハ著明ニ分化シタル原型ノ組織像ヲ現 (51) 3 Æ 12 カ 系統枝 ラテ、 八實驗 本實驗 1 ŀ ル骨腫 -" 毛 = 3 ョリ其 分系 徐々二 同 3 _ 其陋 リテ ナル 的 形成ヲ來スニ至リタルモノアリ」(加藤、 3 1 H. 變化シ、 タル 或 材 於ケル 生長度ノ IV 寫組 性格ラ モノニ 料トシテ 12 或 モノニ 他 被移植家鷄個 織變遷ノ原因的要約ニ就テハ、 移植 方二 in シテ、 **逡ニ粘液肉腫ノ狀ヲ現出スルニ至リシモノナリ。」而シラ「別ニ其第十** 系統列 保有 大小差異ヲ生ズルト共ニ、或ハ屢~ 於テハ「移植十數世代ノ間ニ其移植能率高上シ、生長モ强大ニ傾き、 in 於テ 材 移 2 料 植性 原發腫瘍例以降數十代ノ普通移植試驗ノ經過中、 小石 = タル可 在ル 所謂良性ナル腫 惯 家鶏軟骨腫ヲ用ヰタリ。 ノ異 二生長甚長時 移植 E ノハ、 ナ 腫 ルニョリテハー 瘍 尚廣 組 寫組 11 織八軟 ハス 7 未 コト 原發腫型二髣髴タル組織像ヲ現 織トシテノ諸種性質ヲ具有 京都醫學雜誌、 亙リテ城へタル 骨腫 實驗的研 稀ナラズ 該腫 肉腫性 狼細 比較的容易三行 指 究ヲ遂グラレ 胞 組織い前年我教室ニ於ラ加藤氏 -分化 第十六 概子其 例二於テハ、 傾カントセル例之レ有レドモ、 1 ハル 固 卷第一、三號)。要スル 高低及變異 有性 + 一般二 t . in 遂二 in ラ存績 7 Æ 出 Æ ŀ 組 1 ハヨク原發 + 7 ガ、 3 + タリ in 3/ ヲ示 移植 ラ 中 ۴ 且、組 分化高 ハザリ E 世 M 1 代 個 其

家鷄軟骨腫ノ定型的

ナル

組織像ヲ有スル

モ

ノナリ。

供

3/

13

ルモノハ、其移植第十一世代ヨリ

別二分系セラレタル

腫瘍種

ニ圏スル

ŧ

1

-

3/

Ť

或ル例ニ於テノミ譚メラレ、第一乃至第五世代ニ於ケル各例ニ於テハ終ニ之ヲ認ムルコトヲ得ザリシモノナリ。 固有1分葉狀構造ヲ示セルモノアリタレドモ、其分葉ノ大サハ對照例ニ比スレパ奢シク小ナリキ。而シテ此所見ハ只此第二世代中ノ

タラ彰情報推測規模ノ右右ノ州耳を行うスプージーを有労二世作ノフルモノニかラノー 激展例ニかテ記メシムルカ知夫制情報機能機

腫瘍組織トノ限界ハ鋭利ナラズ。而シテ移植後代ニ於ケルモノニ於テハ、割面一般ニ瀛ニシテ粘液様物質ニテ軽ク被ハレタル親ヲ示 腫瘍組織層ノ相接スル部ハ一般ニ血管强ク擴張シテ色淡紅ナレドモ、粘液化竈ニ直接スル周圍ハ薄キ癭死層ニテ被ハレ、且、此部ト 尙、試驗例曬瘍組織ニ於テハ″割面ノ中央ヨリ精、深部ニ於テ橫ニ走レル漢狀ノ間隙ヲ生ジ"内ニ粘液性物質ヲ容レタリ。此上下兩

製ムルコトナシ。 而シテ移植腫瘍組織が一端増殖ノ途ニアルモノハ其發育ノ途中ニ於テ吸收セラレ又ハ矮小ニ陷ルが如キコトハ各世代各例ヲ通シテ

植世代ノ進ムト共ニ減退シ"且"へまときしりんニ對スル染色性ハ平等ナル能ハザルニ至レリ。而シテ堵殖甚が旺盛ナル上逃ノ間質結 僅ニ此等増殖セル結締機間ニ竈狀ニ所々ニ散見セラル、ニ過ギザルコトナリ。而シテ軟骨腫瘍綱胞間ニ於ケル硝子檬基質ノ形成ハ移 可キコトナリ。移植世代ノ進ムト共ニ間質結締織同ニ粘液植物質ノ出現スルコト多ク、爲メニ間質結締織へ所ニヨリテ粗點トナルニ 見へ腫瘍細胞竈ノ周邊部ニ於テ第一ニ著明トナレリ。上述此等ノ變化ト共ニ紡錘形腫瘍細胞ノ發現が著明ニ看取シ得ラル、ハ特記ス 型性トナリ、且、腫瘍細胞自己ニ於テモ其形態ハ多様トナリ、諸種ノ退行性變化ニ陷レルモノ漸次著明トナリタリ。而シテ此等ノ所 紡織が此等!軟骨腫瘍細胞相互!間ニ侵入スルノ狀明カナリ。腫瘍細胞群ノ排列ハ其定型的ナル輪層狀構造ヲ失ヒ漸失散亂シテ非定 **顕微鏡的所見**。對照例ニ比シテ特異トスペキハ,試驗移植腫瘍組織ニ於クル間質結締織ノ增殖著明ニシテ,軟骨腫瘍細胞ハ只

血管ノ新生及此等血管ノ充盈へ第一世代以降常ニ著明ニシテ、腫瘍周邊部ニ於ケル炎症性諸種細胞ノ浸潤モ亦世代ノ進ムト共ニ顯

對脈列腫瘍組織ニ於ケル肉眼的及顯微鏡的所見へ、大略第二章第一ニ於テ記述セシガ如シ。世代ニ依リテハ多少ノ變異アレドモ、 劃照例ニ就テ一言ス可シ。余へ試驗家瓤列ニ於テ移植ヲ重ヌルト同時ニ、劃照例ニ於テモ其世代ヲ累加セシメタリ。

〇赤松。鳥類ニ於ケル諸種脂肪質試食試験成績報告(第三)

亦大ナルヲ以テ此時期ニ於テ順次次代ノ移植ヲ試ミタルモノ多シ。 **テー般ニ强大ニシテ、腫瘍組織移植後約一ケ月ニ及ベルモノハ試験列ニ於テハ旣ニ大サ鷄卵大ニ逢シ、且,家鷄個體ニ及ポス影響モ** 試職方法トシテハ、旣ニ余が第二報告ニ於テ記載シタル所ト異ナル所ナシ。唯、此家鶏軟骨腫ニ於テハ其生長が家鷄繊維腫ニ比シ

第三章 試驗成績

|株二移植世代1加ヘルト共ニ,劉照例ニ比シテ此等1所見へ比較的早期ニ現ハレ,從ツテ兩者1差異ハ益~著明トナルニ至レリ。 瘤狀ニ隆起シ、硬度へ軟骨性軟ナレドモ、試験例ニ於テハ硬度へ前者ニ比スレパ蓍シク軟ニシテ、增殖腫瘍組織ノ限界ハ對照例ノソ 移植後二三週日ヲ經過セルモノニ於テハ大サ著シク大トナリ、對照例移植腫瘍組織ノ大サ約蠶豆大乃至胡桃大ナルニ比シテ、試験例 瘍組織ハ上皮及筋層ニ對シテ尙可移動物性ナルモ、之レヲ對照列ニ比スレバ其度弱ク、且"移植膿瘍組織片ノ增殖ハ漸次著明トナリ" 二於テハ小鷄卵大乃至大鷄卵大以上ニ逢セリ。而シテ對照例移植腫瘍組織ニ於テハ、增殖腫瘍組織ハ極メテ限局性ニシテ、表面ハ球 む。而シテ移植後代ニ於ケルモノニ於テハ、腫瘤ノ頂部ニ於テ上皮ノ物質缺損乃至潰瘍性變化ヲ認メタルモノアリ。 **レ、羽毛ハ脱落シ、皮下ニ於ケル血管ノ走行ヲ著明ニ認メ得ラル、ノミナラズ、此等ノ血管自己ニ於テモ强ク擴張ノ狀ニアルモノ多** レノ如ク限局性ナラズシテ寧瀰蔓性ナリ。上皮トノ間ニハ一般ニ强キ癒著ヲ示シ、筋層ニ對シテモ亦同棲ノ所見ヲ認ムル場合多シ。 4、**角眼的所見**。腫瘍組織ノ發育ハ移植當初ニ於テ旣ニ對照例ニ比シテ著明ナル差異ヲ示セリ。即,試験家鷄列ニ於テハ,移植腫 試輸案鶏ニ於テ 比較的長期ノちのりん試食ニ 堪ヘタルモノニ於テハ、增殖セル 移植腫瘍組織ヲ被ヘル 上皮ハ一般ニ强ク伸展セラ

メル軟骨種指摘患電ノ存在へ看取が得ラレズ。只、移植第二世代ノアルモノニ於テハ、對照例ニ於テ認メシムルが知キ軟骨體審組織 ズ、而シテ周圍ノ乳機灰白色ナル部分ト相移行セリ。 割面ハ一般ニ多少ノ膨隆ヲ示シ、結締犠性細繊維が縱橫ニ走行スルヲ認メシム。對照例ニ於テ認ムルが如キ大小ノ島嶼狀ニ別タレ

三•四代ノ或ルモノニ於テハ"割面ノ所々ニ特ニ細血管ニ富メル部分アリ。此等ノ部分ハ大サ約大豆大乃至其以上ニシテ限界ハ鋭利ナ

腫瘍組織割面、腫瘍組織ハ對照例ニ比シテ赤色ノ度ニ宮メリ。一般ニ細血管ニ宮=、殊ニ腫瘍組織ノ周邊部ニ於テ特ニ然り。移植

閩有ノ分業狀構造ヲ示セルモノアリタレドモ、其分業ノ大サハ對照例ニ比スレパ著シク小ナリキ。而シテ此所見ハ只此第二世代中ノ

衰弱死ニ瀬スル場合多シ。 X. 試食二供シタルらのりんノ過剰二因スルコトモ其ノ原因的要約ノータ

要約ガ家鷄ノ個體ニ及ボス影響ノ存在ヲ除外スル能ハズ。 ベシト 移植腫瘍組 織 ノ急速ナル 增殖及其生物學的 性質ノ變化 -起因スル特殊ナル他ノ原因 的

ラ漸次其良性ノ度ヲ失ヒラ所謂惡性ナル肉腫性腫瘍組織ニ變異セントスル像ナリ。 植性家鷄腫瘍組織ノ變巡ハ東ニ之レヲ爾後ノ研索ニ待タザル可カラズ。 余ノ實驗的研究成績ノ示スモノハ所謂 良性ナル家鷄軟骨腫ガ其組 |繊學的及生物學的性質ニ於 今後二於ケル此可

第四章 可移植性家鷄軟骨腫ノ變態ニ就テ、結論。

說述 維腫 ノ存 ベみート家鶏個體 格ヲ 3 [瘍組織ノ組織學的及生物學的性質ノ上ニ重大ナル影響ヲ被ラシムルモノナルコトヲ可移植性家鷄織 7 在 局限 保持 ハ旣ニ家鷄ニ於ケル諸種脂肪質試食ニヨル新陳代謝試驗ニ於テ、家鷄血液中ニ發生セル諸種ノり 亦體質的 せ 就テ實驗シ、此場合ニ於ケル腫瘍組織ノ縫態ニ就テ記載シタリ (第二報告)。而シテ余ハ IV 其原發腫 ルコトハ、 所 + :/ 12 7 ガ更二一事質二據リテ確證ヲ得タリト思フ。蓋、 二屯 2 12 X Æ 瘍組織ノ發生以降數十代ノ普通移植試驗ノ經過中、 惹起シ來ル 何等特殊ナル實驗的要約ノ附加セラル、コトナキ狀態ニ n ノニシテ、家鶏個體 ノ 體質的轉換トニ就 テ 記述シ(第一報告)、更ニ家鷄個體ニ此特殊ナル體質的要約 移植セラレタル腫 Æ ノナリ 7 ŀ アルハ文献上其記載多シ。 然レドモ、 傷組織ノ局部ニ何等ノ特殊ナル要約ヲ ノ自然的狀態ニ於テハ此家鷄纖維 或他種 腫瘍組織が其普通移植試驗ノ經過中二於テ、 此可移植性家鷄軟骨腫三 余ガ第二報告二於テ材料ト ヨク其原發腫瘍組織ト 腫 於ラ腫瘍組織自己ノ諸種性 ノ各種性 附加 ス 12 質變遷 於テモ、 コト シタル家鶏 ナ ノ範圍 同一ナル性 余ノ旣 7 其当通移 3 部位的 ラル 21 其

ルニ常二定型的ナル家鶏軟骨腫ノ係ヲ示セリ。

参照)、余ノ場合ニ於テハ旣ニ試驗移植第一世代ヨリ認メラレタル所ナリ。但、 3 ŀ 全世代ヲ通ジテ此種 り。 タリ。試験家鶏列ニ 11 試驗列腫 之レニ 可移植性家鷄軟骨腫ノ移植試驗ヲ 行ヒテ其世代ヲ 累加セシメ、之レヲ 對照例 Ŧi 信 ノ像ラ示 以 成績總括 1. 傷組織 上ノ大サ ス = -ノ所見ヲ認メザルノミナラズ、 50 三達 於ケル移植腫瘍組織ノ發育ハ第一世代以降頓ニ旺盛トナリ、 於テノミ認メラレタル所ナリ。 至リタ h セ り。 ん試 ル系統枝 食ヲ比 腫瘍組織 ノ第十六世代以降ニ於テ認メラ 較的長期ニ亙リテ行ヒタル成年期中等大ノ家鷄ヲ被移植 ガ溝狀ノ粘液化電ニ由リテ上下兩層ニ 對照例ハ依然トシテ定型的家鶏軟骨腫 盖 此所見八既二加藤氏ガ此可移植性軟骨腫 V タル所ナ 余ノ對照例二於ラハ其 レド 別タレタルガ如 對照 Æ 例 (第二章第 -ノ像ラボシ 比 ト相比較 ラ + カ

識 狀 2 細胞 構 而 IN 造ヲ 例 シテ試驗移植第二世代ニ於ケル一例ヲ除ケバ各世代各例ヲ通ジラ腫瘍組織ニ於ケル軟骨 = Ŧ ガ群ヲナ 示ス 的 v "。 之レ Æ 2 ノナ テ 7 2 認 所々二現出シ來ルコトハ注目ニ値ス。 シテ、 2 in コト 結綿 能 織 ハズ。 纖維及紡錘形性腫 顯微 鏡 下二於テモ **瘍細胞** 對 間質結締織ノ粘液化モ亦漸 照例ニ於ラ認 1 増殖著シク、 2 殊二 N ラジ 世代 如 + 定 次 明 켁 進ムト 71 的 -ナ 腫 海細: 認メ 共二後 ル輪層

13

弱死ニ類スル 試驗家鶏ニ於ラ腫瘍組織片移植後約一ヶ月ニ及べバ、 場合多シ。 試食二 供 3 1 12 50 9 h 過剩 腫瘍組 因 ス 織 N ノ發育 2 ハ旺盛ニシテ家鶏 E U 1 原因 個

小見期ニ於ケル原發性肝臓癌ノ一例(附圖二)

新潟醫科大學病理學教室

高泉正暉

構 論

百十一例1小兒期癌ヲ集メ居レリ、コレニ依レパ各臓器ニ於ケル頻度ハ左ノ如シ。 一般ニ小兒期ニ於ケル癌腫ハ成人ノソレニ比シテ蓍シク稀有ナルハ周知ノ事實ナリ、Merckel 氏ハ各種ノ文獻及ど自己ノ實驗例=

腎臟、喉頭、子宮、甲狀腺各一例宛 大腸二八例,卵巢二五例,皮膚一六例,肝臓一三例,胃七例,副腎五例,膵臓五例,睾丸三例,口腔二例,膈下垂體二例,小腸,

即肝臓ハ小兒期ニ於テ比較的壓~瘟發生ヲ見ルモノト言ハザルベカラズ。

ルモノモ多数アリテ氏が確實ニ癌ト認メシ者ハ十數例ニ過ギズ、其後ニモナホ Hippe. 等ノ例アリ。 從ツテ小兒期ニ於ケル肝臓癌ノ報告ハ比較的多シ、泰四ニテハ Philipp 氏ハ 文獻ニョリテ二九例ヲ集メタリ、但此内ニハ不確質ナ

ノ観アリ、即三輪,內海爾氏ノ一例ヲ初メトシ其後山極氏,中村,長澤爾氏,三輪,麏藤竝ニ本田氏。泉氏,瀧本氏及井手氏等都合 本邦ニ於テ大人ノ肝臓癌ハ山種、貴家、山根氏等ノ報告ニ依ルモ泰西ヨリ多シ、コント共ニ小兒ノ夫モ泰西ニ比シ稍ミ多動ナルカ

當教室二於テモ最近其ノ一例ヲ得タレバ次二之ヲ記述セントス。

實驗例

旣往症。初診、大正十年十一月七日、同日入院。 患者。小倉某、九歳ノ男兒、木挽職家族、(池田外科ヨリ)。

〇高泉・小兒期ニ於ケル原養性肝臟痛ノ一例

二報告ニ於テ述ベタルト同一ノ考察ノ下ニ從來ノ研究ヲ續行シテ、實驗的ニ此腫瘍組織變遷ノ跡ヲ追 植試験ノ鏗過中ノ或系統枝ニ於ケルモノハ腫瘍組織ノ部位的ニモ亦被移植家鶏個體ニ於テモ何等ノ特 來リタルコトアルハ加藤氏記載ノ如シ。而シテ余ハ此可移植性軟骨腫ヲ材料トシ、旣ニ余ガ第一及第 殊ナル要約ノ加 シ得タルコトハ、一般腫瘍學ニ於テ意義アルコトナリト信ズ。(終) ヘラレタルコト無き狀態ノ下ニ於テ漸次所謂惡性チル肉腫トシテノ諸種性格ヲ發現シ

九、副脾。

剖檢所見

身長一二○・○極 體重二○・○瓩

贏痩セル男性!屍、屍强ハ各關節ニ輕度ニ存ス、背部及ビ坐骨部ニ斑點狀!血液沈降アリ、皮膚へ汚穢褐色ニシテ乾燥シ彈力ニ宮

ム、下肢ノ輕度ノ水腫アリ、黄疸色ナシ、各粘膜ハ蒼白、角膜平滑透明。

腹部特ニ季肋部ハ著シク膨隆シ周圍六三•○糎ヲ算ス、

腹腔ヲ閉ク時ハ皮下脂肪少量、筋肉發育不良ニシテ溷濁ス。

形狀共ニ異常ナク癒者等ヲ認メズ、腹膜ハ平滑ニシテ光澤アリ、大網ハ脂肪ニ乏シク腸間膜淋巴腺ノ腫膜ナシ。 腹腔内ニハ少量ノ帶縁色透明ノ液體ヲ容ル、腸管ハ瓦斯ヲ以テ中箏度ニ膨滿サレ大腸ニハ多敷ノ硬キ糞塊ヲ觸ル、蟲樣突起ハ大サ

後腹膜淋巴腺ハ豌豆大ニ腫脹シ割面所々灰白色ノ腫瘍物質ヲ見ル。

脾臓へ肥大シ脾門部ニ中指頭大ノ副脾ヲ見ル。

左腎ハ位置導常ナルモ右腎ハ脊柱ニ向ツテ壓迫サレ肥大セル肝臓ニョリテ酸ハル。

肝臓ハ著シク肥大シ其下端ハ右側腸骨前上棘ニ達ス。

膀胱ハ中等度ニ充滿サル。

横隔膜ハ兩側共二第六肋骨ノ高サニ位ス。

胸腔ヲ開披スレバ胸腺ハ脂肪變性ニ陷ル、兩側肋膜腔ニハ癒著祭ナシ。

心外膜ハ平滑ニシテ光澤アリ、心囊液ハ約五○・○瓦、黄緑色透明ナリ。

二異常ナク明四孔へ閉鎖ス。 心臓、重量一二五・○気、屍ノ手拳ヨリ稍~人ナリ、左右ノ房室共ニ異常ナク心内膜平滑、心筋肥厚ナキモ輕度ニ

左肺、氣量ニ宮ミ表面到ル所中指頭大マデノ種々ノ大サノ灰白色ニシテ圓形ヲ呈シ表面ヨリ半球狀ニ隆起セル結節散在ス、肺ニ觸

○高泉・小見期ニ於ケル原發性肝臓痛ノ一例

遺傳トシテ黴毒其他認ムベキモノナシ。

患見へ今迄著忠ヲ知ラザリシガ本年十月十一日突然右側季肋部ニ劇痛ヲ訴フ、其時兩親ハ右側上腹部ニ大ナル腫瘤ヲ發見セリ、

後每日或八隔日二同部位二發作性ノ疼痛ヲ訴へ右背部及肩胛部二放散ス。

水腫ヲ認メシガ兩三日ニシテ消退ス。 現症。患者へ者シク贏痩シ腹部强ク膨隆ス,右側腹部ニ人頭大・腫瘍ヲ觸ル,共邊縁ハ左側副乳線ニテ肋骨弓ノ所ヨリ臍部ヲ過ギ 十一月二入リテョリハ便被及下痢交;來リ昨ニ惡心嘔吐アリ,々メニ著シク贏瘦シ且ツ夜問屢く腹痛ニ苦シメラル,數日前下肢ニ

右側腸骨前上棘ニ逢ス、表面凸凹不平ニシテ質硬ジ但中央部ハ稍ミ軟カニ觸ル、腫瘍ハ胚痛アリ呼吸ニ件ヒテ移動セズ。

尿へ褐色透明酸性ノ反應ヲ呈シ比重一○一○乃至一○二○、蛋白反應陽性 (○•一%) 糖竝ニ膽汁色素反應陰性、ピルケ氐反應ハ僅

九時三十分死亡、同四日午後三時常教室ニ於テ風間助手執刀ノ下ニ剖檢ニ附セラル。 經過。入院後モ隔日位ニ發作性ノ疼痛止マズ、死亡前兩三日間ハ咳嗽及腹痛甚シク衰弱次第ニ加ハリ途ニ大正十年十二月三日午前

病理解剖的診斷

、原發性肝臟癌。

二、兩側肺、氣管枝淋巴腺竝ニ後腹膜淋巴腺ノ移轉電形成

三、下空靜脈及肝靜脈ノ腫瘍栓塞

四、左心室單純擴張。

五、脾腫

六、胃腸かたる竝ニ胃出血。

七、質質性臟器/溷濁

即此表層内ニ存在セルモノナリ。

がう コーション・ション

質自然 3 n 無數 部ヲ見ル、 y 是等大小ノ結節ハ微弱ナル結繙織ニテ周圍ヲ続ラスモ所々結繙織ヲ欽キ直接肝臓組織ニテ境界サ 更ニ ノ小ナル顆粒狀物質充塡サレ此者ハ刀刃ニョリ容易ニ擦去シ得ベシ、 多數 脱落シテ結 各結節 ハノ分岐 71 ヲ出シテ結節内 締織ノ網眼 帶黃灰白色或 ノミヲ見ル ハ帶赤灰白色ニシテ所々 ノ腫瘍物質ハ多數ノ大小種々ノ胞巢ニ區 部 Æ T " 斑狀ノ出血竈ヲ認ム、 所ニョリテハ此顆 分サル、 結節 且ツ 周 此胞 圍 1 、巢內 結締 粒 狀物 織

其 IV 右下方ニ半徑約 結綿 1 ヲ呈シ 境 此者ハ其ノ結繙織ノ狀態ニヨリテニツノ結節ノ結合セルモノト認メラル、即割 葉ノ大部分ヲ占ムル大結節ハ他ノ結節 織 界 = 門 テ圍繞サレシ小指頭大ノ帶黃灰白色ノ顆粒狀ヲ呈セル小結節アリ、一見主腫ト思ハル、狀 縦走セル太キグリソン氏鞘ニハ擴張セ 部 3 五・○糎位ノ圓形ノ結節アリ此ノ左上部ニ同 リカ右 方約四・○糎ヲ距 ッ 二此シ周 ル膽管ヲ有ス、 圍 ノ結締織モ稍~强ク肝組織ト比較的 半 徑ニテ半圓ヲ畫キタル如キ 第一ノ結節ノ中心部 面ニテ見ル ニハ 結節ヲ見ル・ 更 銳利 トキハ 境界

ノニ大腫 瘍 1 間 1 肝臓 組 織い斑狀ノ暗 赤 色ヲ呈シ小葉等不明ナリ、 此部ノグリソン氏被膜 ハ灰白

其ノ他ノ部ノ肝臓組織モ雑色ヲ帯ビ小葉像不明ナリ。

肥厚シ肝臓表

面

21

凹陷

ノ静脈及下空静脈 25 帶赤灰白色ノ軟カキ腫瘍物質ヲ以テ滿サル。

巴腺ハ小指 頭大二腫 瘍シ 3 レニ移轉竈ヲ見ル、肝臓内ノ結節ト同様ノ性狀ヲ有ス。

〇高泉・小兒期ニ於ケル原發性肝臟癌ノ一例

ル、時へ内部ニモ到ル所中指頭大マデノ硬キ結節ヲ觸知ス。

割面無敷ノ摺頭大マデノ灰白色ニシテ質質性ノ結節散在ス、二三ノモノハ質質軟化シ内容脱落セリ。

銀管枝粘膜の少量ノ粘液樣物質ヲ以テ酸ハル、モ充血等ナシ。

右肺ハ全の左肺ト同様ナリ 肺門淋巴腺ハニ三豌豆大ニ腫脹シ割面一部ハ灰白色質質性組織ヨリナリ一部ニハ炭粉色素沈著ス。

F

著シク肥大シ大サニ七•○――-二二•○―― 一○•○糎ニ達シ重量一九七五•○瓦ヲ算ス。

表面可ナリ充血シ暗赤色ヲ呈ス、被膜ハ一般ニ肥厚ヲ見ザレドモ右葉上面中央部ハ稍~凹陷シ此部

分ノ被膜高度ニ肥厚セリ。

テ存在スルアリ、形ハ一定セザレドモホい圓形ニシえ表面ヨリ稍~隆起ス、中央ニ臍等ハ認メズ、但右 葉前面中央及後面中央ニ位スルモノハ大ニシテ鷺卵大ニ達ス。 7ル所ニ小指頭大乃至拇指頭大ノ灰白色ノ結節不規則ニ散在ス、又栗粒大ノモノ連珠狀ヲナシ

下面ヲ見ル時ハ方形葉、尾狀葉及肝門ノ周圍ハ灰白色ヲ呈シ腫瘍狀ニ隆起ス。

左葉ハ右葉ニ比シテ肥大ノ程度輕キモ同様ニ多數ノ結節ヲ見ル。

以上ノ結節表面 [モ健康ナル肝組織ノ部分ト同ジク充血シ所々ニ多數ノ擴張セル血管走行ス。

ヲナシテ存在スルノミ、但下面ハ全ク肝臓組織ナク腫瘍組織ハ直接被膜ト接ス、且ツ此薄層ヲナセル 『組織内竝ニ左葉ニハ到ル所指頭大迄ノ種セノ大サノ腫瘍結節ヲ見ル、肝表面ヨリ見ラレシモノハ ※割面ニ付テ見ルニ右葉ハ殆ンドー大腫瘍物質ヨリ成リ肝臓組織ハ壓迫破壊サレ僅ニ表面

膀胱へ中等度三充縞サル粘膜軽度ニ充血ス。

The state of the s

頭蓋。其形長頭顱型ナリ、頭蓋骨ノ内外面異常ナシ、板障中等度ニ發育シ、艦膜-腦同轉騰溝ニ異常ナシ。

腦重量三四〇·〇瓦、 腦下垂體重量〇・二五ニシテ異常ナシ。

屍體血液及ビ心囊液ノワッセルマン氏反應ハ何レモ陰性

顯微鏡的所見

健康ナル部分、 腫瘍ノ部分、及其移行部ョリ多數ノ組織片ヲ取リ、之ヲ凍固切片、ばらふらん及ちゃ

(一)健康ナル部分、グリソン氏囊ハ輕度ニ肥厚ス、小葉間門脈ノ枝及淋巴腔内ニ多數ノ腫瘍細胞群るろいじん切片トシ種々ノ染色法ヲ用ヰテ檢セリ。 ヲ見ル、

一般ニ毛細血管ハ擴張シ小葉間ニハ所々輕度ノ結締織ノ増殖並ニ圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル。

中心静脈及ビ膽管ニハ之ヲ見ズ。

肝細胞 い多數ノ脂肪滴ヲ有ス、へまごきしりんえおじん標本ニ於ラ原形質内ニ大ナル空隙ヲナシ核

ハ一方ニ 壓迫サレタルモノアレドモ核ニハ特殊ノ變化ナシ。

化著シク肝細 ハ恰モ結締織 移行部 施梁 纖維ノ如キ狀ヲ呈ス。 小葉ノ形狀大小種々ニ變化シ細胞梁ノ排列不整、 ハ壓迫ノタ メ細長トナリ結節ノ周縁ニ平行シテ敷列ヲナス、之ヲ弱擴大ニテ見ル時 腫瘍結節部ニ接近セルモノハ其ノ變

○高泉・小兒期ニ於ケル原發性肝臓癌ノ一例

膽管ニハ擴張肥厚並ニ膽汁鬱積等ナシ。

1、粘稠暗緑色ノ膽汁ヲ滿シ粘膜暗緑色ニ蓍色シ瘢痕等ヲ認メズ。

脾臓。肥大ス、大サー五・○一八・○一三・五糎、重量二○○・○五。

川ツ輕度ニ涸濁ス。 表面皺襞ニ宮=縁ニ載切ヲ有シ環力性硬度ヲ呈ハ、割面ヲ見ルニ被膜肥厚セガ、濾胞明、脾材不明、脾質增加シ僅ニ擦リ取り得、

左臂。大サ九・○一五・五一三・○柳、重量七五・○瓦。

被膜ハ剝離シ易ク弾力性硬度ヲ有ス、割面ハ皮質慥質ノ境界明ナレドモ寅質稗く溷濁ス、腎盂ニハ擴張充血等ナシ。

右臀。大サ九・○一五・五一二・○糎、重量七八・○五。

被膜稍、剝離シ錐シ、他ハ總テ左腎ニ同ジ。

副腎。左二・二五、右、二・四五、イヅレモ皮質ノ脂肪少の饐質乏シ。

膵臓。重量二○・○瓦、異常ナシ。

舌ハ苔ヲ被ラズ、舌根異常ナシ、喉頭・咽頭共二異常ナシ。

食道及氣管枝モ尋常ナシ。

氣管枝淋巴腺豌豆大ニ腫脹シ硬ク割面灰白色ニシテ質質性ナリ。

大動脈内膜平滑ニシテ弾力性ヲ有ス、

甲狀腺。九・○五、異常ナシ。

胃。少量ノ液狀物質ヲ容レ粘膜ハ薄キ粘液様物質ニテ酸ハレ所々線狀ノ出血ヲ見ル。

小腸。少量ノ食糜樣物質アリ粘膜ハ獅キ粘液樣物質ニテ酸ハレ所々充血ヲ見ル。

大腸及直腸ニハ硬キ糞塊多量ニアリ新膜ハ厚ク粘液標物質ニテ藪ハレ輕度ニ充血ス、大腸下部ニ蝴蟲寄生スも二、平三。

稀纖束縦横ニ走行ス、且ツ肝門部ニ見ルガ如キ大ナル動静脈膽管及强大ナル神經束ヲ見ル、 ョリ分岐 右葉ノ大結節ノ中心部ニテ主腫瘍ト思ハル、小指頭大ノ部分ヲ見ルニ周圍ヲ繞ラセル結締織並ニ之 脈内ニハ多數ノ腫瘍細胞群栓塞サル、僅小ノ部分ニ於テ毛細膽管ノ増殖セル所アリ、 七 腫瘍細胞群内ノ結綿織 25 共二著シ ク强大硬固ニシテ此内 ニハ硝子様ヲナシテ肥厚セル結 唯小ナルー 而シテ此

七 25 ルモノナリ、 コレヲ繞ラシ大小種々ノ硝子樣物質アリ、 倘 .ホ此ノ結繙織輪内及之ニ隣接セル腫瘍組織ハ他ノ部ト殆ンド同様ノ造構ヲ有セルモ腫瘍胞巢内或 為メニ纖維腫様ヲ呈セル所アリ。 此ノ物 ハ明ニ壊死ニ陷リタル腫瘍或ハ血塞 ノ漸 次機

個所

=

於ラ萎縮消失ニ傾ケル肝細胞群ヲ認ム。

形質 腫 |瘍細胞ノ一般ノ性狀ヲ観察スルニ其ノ大サー定セザレドモ概シテ肝細胞ト等大ノモノ多シ、 い多少顆粒狀ヲ呈ス又脂肪ぐりこげーん等ノ存在ニョリテ水泡狀ヲ呈セルモノアリ。 23 顆粒 乏シク 明性ニシラ肝細 胞 ノ如ク褐色調 7 帯ビズ、 但毛細管二接 セ ルー列ノ細胞 特二其基 其原

比シラ著シク大ニシラ染色體ニ富、所々不規則ノ核分制像ヲ見 No

胞 ノ形 E 不定ナ レドモ概シテ多稜形トス、 但毛細管ニ接セルー 列ノモノハ 短圓 柱 ファナ

今各部ノ脂肪染色切片ヲ見ルニ、

ラハル、 般二多量 セル毛細管二於ラ然り。 一川脂 肪ヲ含有 シクッペル氏星芒狀細胞亦多量ノ脂肪ヲ攝取シテ肥大シ蓍明 7

〇高泉・小兒期ニ於ケル原發性肝臓癌ノ一例

々之ヲ = 直接 缺 園 + 七 直 IV 部 接 ラ見 肝 織 細 い結節ノ大小ニョリ其ノ發育ニモ差異アリ、小ナル結節 胞梁 No ニテ境界サ in. 大ナル結節 = テハ結縮 織 1 發育 E 强 ニテハ ケレドモ 結 編 矢張 織 Æ " 所々 ク且 肝 "

E 20 和 ヤヤノ ニョリ 其核ノ ねくろ テハ腫瘍 狀態、 CK おー 原形質內ノ顆粒及細胞ノ色調ニョリテ明 細 ゼノ狀態ヲ示 胞 浸潤 性二肝細 ス モ ノアリ、 胞間ニ浸入シ或ハ腫瘍細胞内ニ多數ノ肝細 斯ク 1 如 つか肝 = 細 區別 胞 ŀ + 腫 塩瘍細胞 iv . E ノトス。 ŀ 混 在 胞 7 七 混 in 入 シ肝細り = 胞

ヲ見 リソンン # n 氏囊ハ著シク肥厚シ肝組織ハ硬變狀 此二ッ 存 此部 ,v = 肝小葉 大結節 ノ結節 ادر 周圍 認 結合部 2 ル事 1 結締 ニテ其間ニ 能 織 21 大。 强ク 肝 發育 ヲ呈シ増殖セル 組織ヲ存 シ此内 七 ニハ大ナ n 結綿 部即 織內二多數 表 ル神經、 面 3 リ稍 動靜 一凹陷 ノ萎縮セル肝 脈 セル 及多數ノ膽管等ヲ見 部分ヲ見ル 細 胞 及

胞 毛細管網內ノ小葉ハ全ク質質性 アリ、 群 テ毛細管ヲ見ルモノアリ、 ニョリテ質質ヲ多數 ナ マニシテニ三列 y. 又中央壞 毛細管 恰モ 死 網 肝 ノ細胞 = 21 陷レル 所ニョ 臟組 ノ小葉狀ニ 群 織ヲ見ル モノ 1) 但シ一般ニ細胞ハ不規則ニ存在シ細胞梁等ヲ形成セズ、 ニテ細胞 ラ -アリ、 ハ著 區別ス、 シテ格子狀纖 ガ 梁 シク版 如 硝子様ニ シ、 ノ如キ 肉眼 張 卽 維 3/ -形ヲナセ 結編織 變性 皱銀 毛細管ト テ細顆 セ 法 -N ルモノアリ或 テ作 粒狀物質 -如 3 共 キア ニ小量ノ結綿 ラ N Æ 2 リリ或 些ノ トシテ 3 胞巢內 結 ハ無敷 21 中央二中心 編 現ハ ハ内被 織 織 ノ細胞 纖 v 性 シハ 物 維 質 7 細 ヲ容 ラ認 伴 此 胞 又花環狀形 小 3 葉 x 1) in n 如 . Æ 狀 + ズ 大ナ 小葉 1 iv 形 毛 ルモ ハ大 細 y + 間

ハ多數ノ上皮樣細胞孤在性或ハ群集性ニ存在ス、コレ脂肪ヲ 攝取シテ 恰モへるつふ*ーれる細胞ノ 周圍 狀ニアルモノナリ。 |ノ肺胞ハ壓迫ヲ受ケヲ腔ハ細長トナリ結節ヨリ稍、近リシ部分ハ代償的ニ氣腫狀ヲ呈ス肺胞内

トド三田等立二功争成为二大小

ナホ毛細管並ニ動静脈内ニ大小種々ノ腫瘍栓塞ヲ見ル。

瘍細胞 内ニハ多量ノ脂肪ヲ含有シ且ツ肺胞壁ノ細胞ニモ存在ス、其狀態ハ全ク肝臓ニ於ケルト同

様ナリ。

ぐりこげーんモ肝臓ニ於ケルト同様ニ存ス。

其他ノ臓器。

脾臟 靜脈資擴張シ瀘胞ハ小ナリ、被膜、脾材、脾質、濾胞共ニ多量ノ脂肪アリ濾胞内ノモノハ中

性脂肪ノミョリナリ他ノ部ニハこれすてりんえすてるヲ混ズ。

皮質二多量ノこれすてりんえすてるヲ有ス其他二異常ナシ。

副腎

細尿管内ニ多量ノ蛋白様物質ヲ見ル、絲毬體內ノ血管壁ノ細胞並ニ細尿管各部ノ細胞特ニ其

ノ基底部ニ多量ノ脂肪ヲ見ル。

膵臓 膵管輕度ノ増殖アリ、脂肪ハ極メテ少量ニ存ス。

睾丸 細精管ノ細胞内ニ極メラ多量ノ中性脂肪ヲ有ス。

心臓、胃、腸、甲狀腺、腦イヅレモ著變ヲ認メラレズ。

總括

間質内ニモ同様ニ多量ノ脂肪アリ。

狼 細 胞 如 二毛細管網 壁 ノ内被細胞内ニモ亦多量ノ脂肪ヲ有ス、特ニ毛細管壁ニ位セル短圓柱

[瘍細胞内ニ著シク、又腫瘍ノ小葉内壊死部ニハ極 メテ多量ニ存ス。

ノ如ク多量 1 脂肪ヲ有スルモ肝細 胞 及腫瘍細胞共二其核二八特種 ノ變化ヲ認メズ唯其 ノ位置 ヲ髪

^ 般ニ大小ノ滴狀或ハ點狀ヲナシテ存在シ原形質ノ外核内ニモ M 明サル。 ゼルノミ。

芒狀細 締織 檢スルニ多量!ぐりせりんえすてる!外重屈折性!これすてりんえすてるアリ、後者ハクッペル氏 纖 維 1 間 脂肪ヲずだん皿、にるぶらう、 腫瘍 又ハ細胞内ニ多量ニ存ス、ナホ肝細胞内ニモ少量ナレドモ重屈折性脂肪 細胞ノ毛細管ニ接セル モノ及壞死部二最モ多ク又間質特二增殖ヲ見ラル、部 フィシュラー、スミス、チャチオ氏ノ染色法並分極光装置 ガ中性脂 分二モ結

部 ぐりこげーん顆粒狀ヲナシテ現ル、主ニ原形質内ニ見ルモ核内ニモ少量ニ存ス、但脂肪ト異ナリ壊死 15 ハ存在 スト 氏 セズ。 かるみん染色法 E = 2 ルは八腫瘍細胞 內 特二脂 筋ト 同 37 ク毛細管壁ニ接 七 w 細胞內

脂臟

在ス。

ノ結絡線 癌結節 ノ性狀 モ微扇二 ハ肝臓ニ於ケルト全ク同一ニシテ毛細管網ニョリテ多數ノ小葉狀ニ區分サレ結節周 3/ 7 部 計組 織 -依り直接境サル。

顯微鏡的ニハ肝臓組織ハ充血シ小葉間結締織輕度ノ増殖アリ、此内ニ圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル所アリ、

肝縞胞ニハ多量ノ脂肪ヲ含有ス、但シ核ハ保存サル。

小葉間門脈ノ枝及組織間隙ニ多數ノ腫瘍細胞群ヲ見ル。

右葉ノ二大腫瘍ノ結合部ニ テ表面ヨリ凹陷セ ル部分ノ肝臓組織ハ 硬變狀ヲ呈シ 多數ノ膽管増殖ア 且ツ所々ニ萎縮セル肝細胞數個ヅ、封入サル。

一般ニ肝組織ノ腫瘍組織トハ明ニ境界サル、モ一部分浸潤性ノ所ヲ見ル、斯ル部ニ於テモ兩者ノ細

胞い明二區別スルヲ得。

モノアリ、又中心壊死ニ陷レルモノアリ、但シ花環狀形成及膽汁分泌等ハ認メズ。 [瘍細胞ハ毛細管網ニヨリテ小葉狀ニ區劃サレ一部中心靜脈ノ如キ狀ヲナセル毛細管ニテ貰カル、

此部ハ腫瘍細胞及結繙織共ニ變性著シク靜脈內血塞ノ機質化セルヲ見ル。 主腫瘍ト思ハル、部ハ結繙織輪ノ發育强ク此内ニ多數ノ滑平筋纖維大ナル神經及動靜脈アリ、且ッ

ピぐりこげーんヲ含ム、特ニ血管ニ近キ部ニ然リ、又壞死部ニモ多量ノ脂肪ヲ見ル、但ぐりこげーん 腫瘍細胞内ノミニシテ壌死部ニハナシ。 瘍細胞ハ大小不定ナレドモ槪シテ肝細胞大、但シ核ハ極メテ大ナリ、此細胞内ニハ多量ノ脂肪及

肺二於ケル腫瘍モ全ク肝臓二於ケルモノト同様ナリ。

考 案

以上ノ所見ヨリ考察スル時ハ本腫瘍ハ山極、貴家氏等ノ所謂原發性質質性肝臓癌ニ一致シ肝細胞

リ發生セル定型的ノー例ナリ。

〇高泉・小兒期ニ於ケル原養性肝臓癌ノ一例

本 的 稀有トセラル、小兒ノ原發性肝臓癌ニシラ初メ突然肝臓部ノ疼痛ヲ以テ來リ五十日除

ノ間ニ漸次衰弱シテ鬼籍ニ入リシモノナリ。

剖檢ノ結果主ナルヲ變化ヲ肝臓及肺ニ認ム。

モノ 1 肉 モノハ手拳大ナリ、此物ハ二個ノ圓形及ビ半圓形ノ腫瘍結節ノ結合セルモノニシテ圓形ヲ呈セル 的 中心部ニハ小指頭 ニハ肝臓ハ著シク肥大シ表面及割 大ノ强ク發育セル結綿織ニテ圍繞サレシ主腫 面 二數多ノ指頭大マデノ腫瘍結節ヲ認ム、其內右 傷ト認ム べキ部分アリ、 此二ッ

腫瘍ハ一般ニ帶黄灰白色乃至帶赤灰白色ヲ呈シ軟ク所々充血著シク加フルニ出血ニヨリ雑色ヲ呈ス 結合セル部分ハ表面ヨリ見レバ稍~凹陷シ且ツ此部ノ被膜特ニ肥厚セリ。

ル部分アリ。

腫 [瘍結節ハ其周邊部ニ於テ主腫瘍ノ外ハ結綿織ノ發育不充分ナリ。

塡ス。 周 圍 ノ結縁 織輪ヨリ内部ニ分岐ヲ出シ腫瘍ヲ多數ノ胞巢ニ分ツ、 胞巢内ニハ顆粒狀ノ腫瘍物質充

肝静 下大靜脈內二八腫瘍物質 ノ栓塞 ラ見ル

肝臓組織ハ各腫瘍結節ニ壓迫サレラ所々ニ認ムルノミ、且ツ輕度ノ硬變竝ニ充血アリ。

肝門及腹膜淋巴腺ニ腫瘍ノ移轉アリ。

|轉移ハ雨肺ニモアリ其大サ小指頭大ニ達セリ。

顕微鏡的ニハ肝臓組 一株ハ充血シ小葉間結綿線軽度ノ増殖アリ、此内ニ圖形細胞ノ浸潤ヲ見ル所アリ、

微ノ間質増加及圓形細胞浸潤ヲ認ムルモ、 次ニ本例ニ於テ腫瘍發生ヲ考フルニ腫瘍 ノ侵害ヲ蒙ラザル肝臓組織ニ於テハグリソン氏囊ニ於テ輕 コレハ萎縮性肝臓硬化ト看做シ難ク腫瘍發生ノ爲メノ二次

的結果ナ

3

٦

ヒナシ。

骨髄様造血維精等を設プラル化を全然是等ノモノヲ認ヲ後サリシモノモアリ

1) 至 テ IJ Æ = ス 一浸潤性 モ結)V ifi (1) 大結節 / 中心部ニ於テ拇指頭大 / 肥厚セル結繙織組 然ラバ 附 認メザ 壌死竈或ハ血栓ノ機質化セルアリ、加之纖維膜様結節ヲ形成セリ、如斯舊キ病變ハ Æ シテ前述ノ纖維性結節部ハ强大ナル動脈並ニ神經纖維ヲ有シ且ッ比較的大ナル膽管 ŀ 編 = アリ、 織 本 ル所ナリ、 能ハズ。 = 纖 例ニ於テ腫瘍發生ノ原發竈ハ何慮ニアリヤト云フニ肉眼的ニ旣ニ陳舊竈ト思ハル、所ハ右 部 増殖セ 維 グリソン氏被膜ニー 本例 肥厚シ硝子樣變性ヲ呈ス、且ツ腫瘍實質ノ造構ハ他ノ部 ル外門脈管ヲ介シテ肝臓兩葉ニ廣汎性ノ 依ラ本例ニ於ラハ此陳舊ナル部分ニ初メ腫瘍ヲ發生シ之ヨリ周圍ニ 二於テハ此小結節部ヲ精察セルモ何等ノ胎生的組織ト 致シ居 レリ、 im シテ其 つ位置 織ニテ圍繞サレ居ル部ナリ、 移轉結節ヲ生ゼシメタ E 肉服的 所見 二同 看做スペキ組 三述 ジキ 12 モ售キ 1 タル Æ 他ノ何レ 此部 ノナルベシ、 病變 ガ 向 織畸 7 如 テ 有スルニ ノ部分 ノ飛 顯微鏡的 形 ク肝門 擴大性乃 ヲ發見 ŀ 2 部

盛ナル 硬化ヲ 唯本 ノタメニ 認ムルコ 例 殖アリ、 -壓 於テ注意スペ 迫 トナリ、 セラレ機發的ニ發生セシモノニ非ズシテ稍~大ナル門脈管内ニ生ゼシ腫瘍性 斯ノ如キ病變 キ所見 此部ニ於テハ實質細胞ハ大部分萎縮消失シ肥厚セル結締織中ニ膽毛細管ノ旺 ハ右葉ノ兩大結節ノ境界部ニ當リ殘存セル肝臓組 唯深 部 ノー小部分二於テ認ムル ノミ 其成立機轉八隣接 織二 高 度ナル萎縮及 n 腫瘍組

〇高泉・小兒期ニ於ケル原發性肝臓癌ノ一例

ヲ述べ居レリ、 Æ 小兒期 原發性肝臓癌ノ年齢ノ關係ニ付ラ井手氏ハ文獻ヨリ集メタル十一例ニ依リ第二小兒期 然レドモ余ノ例ハ九歳ナルヲ以ラ第二小兒期ニ屬セ 二多ク殊二一歳ノ終リョリ二歳二亙リテ最モ多シトシ Philipp 氏ノ所説 り。 反スル事 3 "

= 3/ ラ E hi 現ハレ其組 般ニ原發性肝臓癌ハ肝臓以外ノ他ノ臓器ニ移轉ヲ起スコト少ク若シ來 = 來ル殊 織 二淋巴腺 的造構モ肝臓ノ腫瘍結節ト同様ナリ。 ヘノ移轉 21 比較的稀ナリトセラル、 然ルニ本例ニ 於テハ移轉 ルコトアルモ遅ク且 八肺 ノ外 ツ主ト

型的ノ發育ヲ遂ゲシ極メテ惡性ノモノナルコト明ナリ、 及ぐりこげーんヲ含有シ著シク明性ニシテ顆粒 理解セラル・コトナリ。 **瘍ハ如斯廣汎ナル移轉ヲ肝臓内ノミナラズ他ノ臓器ニ有シ且ツ腫瘍細** ニラシキコト及核分割像 7 レヲ臨牀上其ノ經過ノ迅速ナルニ徴シテモ ノ存在 胞ハ大サ不等ニシテ脂肪 スルコト等 = = リテ 遠

生ニハ其前騙性變化トシテ肝硬變或ハ其他ノ原因ニョル肝細胞ノ退行變性ヲ必要トス、但少數 今本腫 小兒 鴉ノ發生ニ付テ考察スルニ山極博士ハ肝臓癌發生ニ付キ次ノ如ク述ベラレタリ即 於ラハ先天性基礎ト見得ベキ中肧葉ヲ含メルてらごいーどノアル所ヨリ肝細胞 1 垍 殖 ノ初生 癌 = 3

骨髓様造血組織等モ認メラル但シ全然是等ノモノヲ認メ得ザリシモノモアリ 明 ヨルモ小兒ノモノハ大人ト異ナリ肝臓ニ萎縮性硬變ハ之ヲ認ムルコト少キモ . 7 トアリ、 即胎 生的組 織トシテ骨及軟骨様組織、 粘液様組織ヲ認メ或、上皮様組 屢~ 胎 織 的 組織

リラ

發生スルモノアリット。



Fig. 2.



(Takaizumi)

果ナリト考フルヲ至當トス。

ノ一特徴トセル所ニシテ本例モ餘リコレニ一致シ居レリ、加之本例ハ腫瘍ノ外肝臓組織ニ多量ノ重屈 從ラー度存在 トニョリ考フ ガ為メナルベシ。 最後二本例二 スルニ本例ニ於テハ其原發竈ニコレガ發生原因ト看做スベキ何等ノ所見ヲ發見スルコト能ハズ、 肪ノ沈著アリ、 セシ組織畸形ノ消失セルモノナ ハイ 於テ饒多ニ證明スル脂肪及ぐりこげーんハ毛細血管網ニ接近セル部ニ多ク存 ヴレモ血行ヲ介シテ其所ニ浸潤性ニ到著セルモノナリ、此ノ所見ハ實質性肝臓癌 且ツ脾臟竝二副腎二於テモ饒多二此者ヲ含有スルハこれすてりねみーノ存在セ ルカ或 ハ他ニ發生原因アリシャハコレ 7 知 ルニ 在スルコ

結論。

一、本例ハ九歳ノ童兒ニ見タル原發性實質性肝臓癌ナリ。

達型的 | 發育ヲ遂ゲ肝臓内ハ勿論兩肺及隣接淋巴腺ニ移轉ヲ有スル惡性ノモノナリ。

二、肝臓組織ハ腫瘍ニ壓迫サレテ輕度ノ硬變ヲ呈ス。

肝細胞並 ノナリ。 ニ腫瘍細胞内ニ多量ノ脂肪及ぐりこげーんヲ含有セルモ是等ハ其發生ニハ關係ナキモ

Ŧī. 右葉大結節内ニ小指頭大ノ强固ノ結繙織輪ヲ有スル所ハ肉眼的顯微鏡的ニ原發竈ト看做スベキ

此部ハ强大ナル動脈及神經纖維ノ發育ト、大ナル膽管ノ存在ニョリグリソン氏囊ニー致シ居

蟄生原因ハ不明ナリ、組織畸形其他注意スペキ病變ヲ認ムルコト能ハズ。

八、右葉大結節ノ表層ニアル萎縮性硬變部ハ恐ラク大ナル門脈管ノ腫瘍性血栓ノ為メニ生ゼルモノ ナラン。

九、本例いこれすてりねみーヲ有ス。

終リニ臨ミ恩師川村敷授ノ御懇切ナル御教示ヲ深謝ス。

Literatur.

allgem. Pathologie und der path. Anatomie des Kindesalters. Bd. 1, 1910. 3) Hippel, Virchow's Arch. Bd. 201, 1910. 1) Eggel, Ziegler's Beitrage zur pathologischen Anatomie. Bd. 30, 1901. 2) Merckel, Brüning-Schwalbe, Handbuch der 科維語·119 號· 12) 長澤,兒科維語·128 號· 13) 中村,兒科維語·128 號· 14) 三輪、磨簾,兒科維語·142 號· 3年、第1册、9)山楂,癌,第4年及第3年、第1册、10)山楂,日新醫學、第4年、第10號、11)三輪、內灘、 Jahrb. für Kinderheilk. Ed. 8, 1875. 8) Plaut, Arch. für Kinderheilk. Ed. 43, 1906. 7) 貴康. 病. 第 2 年. 第 2 景及第 山樓, 福岡醫科大學雜誌 第十二卷 第 1-2 號. 第 2 册· 19) 泉,Arch. f. klinische Chirurgie. Bd. 100. Heft. 4. 20) 濃本,日本外科學會雜誌. 第 15 年. 第 3 册. 井手,兒科雜誌, 183 號. 16) 中村,癌. 第5年. 第1 册. 17) 本田,癌. 第5年. 第2 册. Zeitschr. für Krebsforschung. Bd. 5. 5) Schlesinger, Jahrbuch für Kinderheilkunde. Bd. 55, 1902. 6) Pepper, 18) 木積, 癌, 第9年.

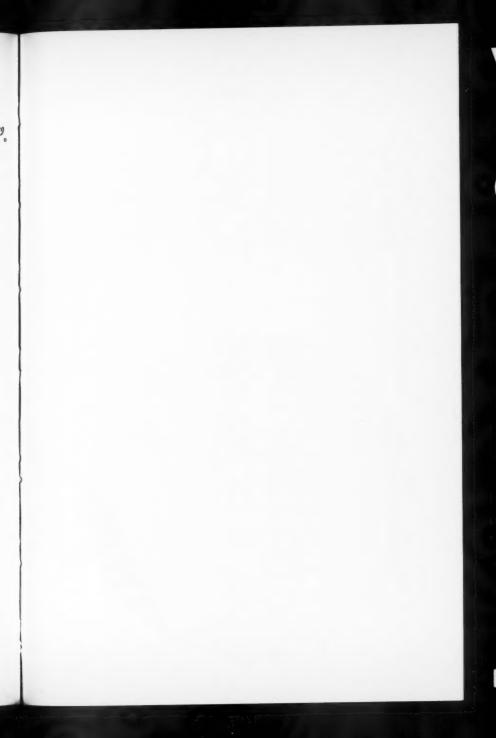
附圖說明

第一圖、肝臟割面(實物/約五分/三大)

Pハ原養職ト認メラル、部

第二冊、第一圖ノPノ顕微鏡寫真

〇高泉・小兒期ニ於ケル原發性肝臟痛ノ一例



一、惡性腫瘍細胞ノ核小體ニ就テ

Béla Johan, Über die Nucleolen maligner Geschwulstzellen (Centralbl. f. allg. Path. u. path. Anat. Bd. XXXII, Nr. 16, 1922.)

デハかりおれきしす、かりおりじす、核膜ひぺるくろまこ デハかりおれきしす、かりおりじす、核膜ひぺるくろまこ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ でし等ノ變化ノ如シ、尚ホ病的狀態ニ於ケル核ノ變化トシ

テハかりおれきしす。かりおりじす。核膜ひぺるくろまこ|大サ、數等ハ組織ノ種類ニ依り種々異ナルモ、同一組織ニ 述スルニ非ザルヲ以テ弦ニ其詳論ヲ避ケ、唯核小體ノ形 然心共著者ノ目的ハ核小體ノ正常ナル形態ニ關スル記

にん形成ニ必要ナル者ト認ムルアリ。

鉄

Gハ腫瘍組織

〇ハ機質化セル部

ニ是等ノ核小體ニ種々ノ染色ヲ試ミタル結果ヲ記述セリ。リテ其染色性ハ核小體ト同様ナリ (Nucleolimes)。著者ハ次ケノ空胞ヲ有スルアリ、更ニ其空胞内ニ屢ミ小ナル小體アリ。核小體ハ一般ニ均質ナルガ其大ナル者ニテハ一乃至ニリ。核小體ハ一般ニ均質ナルガ其大ナル者ニテハ一乃至ニ

へまごきしりんゑおじん染色ニテハ赤染ス、(著者ガ同や出ノ腫瘍組織例エバかんくろいごニテ懐シタルニ、核時ニ他ノ腫瘍組織例エバかんくろいごニテ懐シタルニ、核中性シムルモ尚ホ殘存ス、(硝子化セル結締織束、及ビ腺胞内セシムルモ尚ホ殘存ス、(硝子化セル結締織束、及ビ腺胞内セシムルで核ノモ赤染スルノ像ナリ、更ニ是等ノねくろびおーゼラ呈ノ腱様物ハ赤染ス)、尚ホ顯著ナルハねくろびおーゼラ星、核ガ全然均質トナリ細胞體ハ小トナル、核ハ濃赤染シ原形質ハ淡赤染セル狀ラ呈シ長時脱色セル、核ハ濃赤染シ原形質ハ次赤染カル 和胞中ニハ、其くろまちん網ノ全ク溶解シテ核ハ收縮シ其全體ヲ核小體ニテ充ちん網ノ全ク溶解シテ核ハ收縮シ其全體ヲ核小體ニテ充ちん網ノ全ク溶解シテ核ハ收縮シ其全體ヲ核小體ニテ充ちん網ノ全ク溶解シテ核ハ收縮シ其全體ヲ核小體ニテ充ちん網ノ全ク溶解シテ核ハ收縮シ其全體ヲ核小體ニテ充・調セルガ如キアリ、及ハ相互ニ核小體ガ融合シテ其境界ヲ協・ルボ染ス、(著者ガ同・本ま染ス。)

May-Grünwald-Ciemsa 染色ニテハ、核小體ハ他ノ腫瘍細胞ノ者ト同ジク青染ス、尚ホくろまちんノ染色ト異ル事ナ

水同樣)。 水可樣)。 核小體ハ濃赤色(膠樣物及硝子化結締織モ の網ハ青緑色、核小體ハ濃赤色(膠樣物及硝子化結締織モ

テハ大體同様ノ狀態ラ呈シ甚シ キ異動ナ キ事ヲ記載シ置

換言スレバ原形質染色色素ニ好染ス。 核小體ノ染色性ハ一般ニハ好酸性(acidophil)ト看做サル

Montgomery ハ核小體物質ハ核ハ茶では、これでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、 一般のでは、 一般の

部分ハ細胞ニ富ム腫瘍組織ヨリ成リ胞巣狀造構ヲ呈セズ、部分ハ細胞ニ富ム腫瘍組織ヨリナルモ、後者ハ種をナル組織腫瘍組織ニ依り闡之、一の膠樣物質ヲ其内部ニハニケノ約胡桃大ノ空洞アリテ、一ハ膠樣物質ヲ其内部ニハニケノ約胡桃大ノ空洞アリテ、一ハ膠樣物質ヲ其内部ニハニケノ約胡桃大ノ空洞アリテ、一ハ膠樣物質ヲ其内部ニハニケノ約胡桃大ノ空洞アリテ、一ハ膠樣物質ヲリ外科的ニ腺様物ニ富ム甲狀腺組織ヨリナルモ、後者ハ種をナル組織膠様物ニ富ム甲状腺組織コリナルモ、後者ハ種をナル組織膠様物ニ富ム肝瘍組織コリナルモ、後者ハ種をナル組織と関ラ呈シ、甲狀腺組織コリナルモ、後者ハ種をナル組織のラ呈シ、甲狀腺組織ハ軍ニ所を二散在スルノミニテ、大像ヲ呈シ、甲狀腺組織コリカリカ・関係を関する。

腫瘍細胞ハ小イ多核白血球ノ約二倍大、大ナルハ約八乃至

十倍大、核ノ形態モ亦種々ナルガ多クハ單核ニシテ薯明ナル分葉狀ヲ呈ス、一般ニ核ハ大ニテくろまちん含有量ハ種ナレ共著明ナルひぺるくろまじん染色標本ニテ既ニゑおじんニ好染セル青色ヲ呈スルヲ認メ得ラル、然ルニぶるまりん固定材料ヲワイゲルト氏(へまごきしりん及ビゑおじんニテ染色セル標本ニテハ核小體ガ毎常へまごきしりん)ニ好染セル青色ヲ呈スルヲ認メタルヲ以テ、此腫瘍例ニ於ケル核小體ノ染色ニ關スル興味ヲ喚起シタルヲ以テ、詳細ナル檢索ヲ施シタルニ正常組織細胞ノ核小體ニ認メ得ずナル檢索ヲ施シタルニ正常組織細胞ノ核小體ニ認メ得ずナル検索ヲ施シタルニ正常組織細胞ノ核小體ニ認メ得ずナル検索ヲ施シタルニ正常組織細胞ノ核小體ニ認メ得ずナル検索ヲ施シタルニ正常組織細胞ノ核小體ニ認メ得ず

部ニ テハくろまちん網ハ粗大ニ テくろまちんハ細絲狀ナ ・體ノ直徑ハ約十 μ橢圓形ノ者ハ約一〇×四〇μニ達スル 大ナル核小體アルカ或ハ多數ニ存スルヲ常トス。核小體ガ ・間ラ有スルモアリ、核小體バンの表ちん網ニ接著セル事 ・間ラ有スルモアリ、核小體が大ナルは三ハ ・一筒ナル ハ稀ニテ多ク ハニ乃至三筒或ハ多數ノ小ナル核 ・一筒カル ハ稀ニテ多ク ハニ乃至三筒或ハ多數ノ小ナル核 ・一筒カル ハ稀ニテ多ク ハニ乃至三筒或ハ多數ノ小ナル核 ・一筒カル ハ稀ニテタク ハニ乃至三筒或ハ多数ノ小ナル核 ・一筒カル ハ稀ニテタク ハニ乃至三筒或ハ多数ノ小ナル核 ・一筒カル ハ稀ニテタク ハニカをし、側形ノ核 第一ニ顯著ナルハ核小體が甚ダ大ナルニアリ、圓形ノ核

稀ナラズ(木村哲二抄)。 然カモ其染色性ノ變化ラ呈ス、核分剖時中核小體ガ不溶 ル悪性腫瘍細胞ニテ大量ノ核小體物質ラ有スルヲ認ム、 主張セル如ク " Schwach basophil " ナリ"大ナル核ヲ有ス | 者自身ノ哺乳動物、鳥類、冷血動物ノ腫瘍ニ關スル實地ノ觀 7. | 釈態ニ残遺セル ヲ認メ得ラル、 ハ悪性腫瘍ニテハ

以三特二稍と詳細ナル抄録ラ試をタルナリ)。 論断ラ下スガ如キハ好マシカラズ、然レ共腫瘍細胞ノ核 ノ渉獵を僅少ナルニを拘ハラズ、直チニ大脈ナル種々ノ 小體ト云フガ如キ問題ハ近者閑却セ ラレアル ガ如キラ カー例ノ腫瘍ノ所見ヲ基礎トシ、又核小體ニ關スル報告 (抄譯者日、此報告ハ其所論不充分ノ所少カラズ、殊ニ僅

二、比較腫瘍學補遺殊二異同問題 ニ就テ

ogie mit Berücksiehtigung der 17, 1920, H. 2, S. 285.) Teutschländer Beiträge zur vergleichenden Onkol Identitätsfrage. (Zeitschr. f. Krebsforschung, Bd.

關聯セル澤山ノ文獻二就テ種々ノ批判ラ下スト同時二、著 此あるばいミハ六表四十一圖ヲ有スル甚ダ浩瀚ナ者デ、

> 祭ヲ基礎トシテ、動物ノ真性腫瘍ノ比較病理學ノ綜說的論 意シタル報告デアル。 述、殊二人類及ど動物腫瘍ノ異同問題 (Identitätsfrage)ニ注

因ガ總論的二說明セラレテ居ル、先び第一二腫瘍ノ發現ス フ様ナ脊椎動物ハナイラシク思ハレル、唯最下等ノ脊椎動 ニモ發生スル。ダカラ腫瘍ノ發生ガ全然不可能デアルト云 血―温血動物ニ、野生或ハ家畜トシテノ草食獸ニモ肉食獸 ル範圍ニ就テ云フト、腫瘍ハ殆ンド總テノ脊椎動物即チ冷 見エル。 界點 .. phylogenetische Terminationspunkt "トゴフモノハ 椎動物ニハ腫瘍形成ノ無イコトガ物性ラシク考エラレル、 物(例へバ圓口類 Zyklostomen) ニハ無イラシイ、反之無脊 大體無脊椎動物ト有脊椎動物トガ境ニナ シテオ ルラシク ツマリ腫瘍形成機轉ニ關シ テ Wolf ノ所謂系統發生的限 此業績ノ前半ニ テ ハ動物腫瘍ノ形態學生物學統計及原

キ者ガアル、犬、まうす、 鱘類等ガソレデアル、家鷄モ亦 腫瘍ラ發生スル所謂癌動物 .. Karzinomtiere " ソレカラ脊椎動物ニ就テ云フト、主トシテ上皮細胞性ノ トモ云フ可

合スル事ハ容認シ難シト云ヒオレリ。

鹽基性弱シトノ観察ヲ至當ト考フルナリト。 鹽基性弱シトノ観察ヲ至當ト考フルナリト。

生スレ共、腫瘍狀增生ヲ呈スルニ當リテハ全然其機能ヲ變得可ク、本例ノ腫瘍細胞ハ正常ナル狀態ニテハ膠橡物ヲ産ルキニ關シ、其原因ハ全然不明ナルモ、唯吾人ハ腫瘍ニテルト同樣ニ其化學的機轉モ亦變化セラレ タル者ト云フ ヲルト同様ニ其化學的機轉モ亦變化セラレ タル者ト云フ ヲルト同様ニ其化學的機轉モ亦變化セラレ タル者ト云フ ヲルト同様ニ其化學的機轉モ亦變化セラレ タル者ト云フ ヲルト同様ニ其限因ハを然不明ナルモ、唯善人ハ腫瘍ニテルを派をして、

可キ者ナルベシト云ヒオレリ。 ラク斯ク ノ如ク全然變化セラレ タル機能ノ一表現ト認ム

の是等ノ所見ヨリシテ直チ ニ核小體が核分剖 ニ不必要ナル銀術鍵ノ相對セル兩極ニ存在スルラ見ル、然レ共著者に、出現ナリ、上記ノ如ク一般ニハ正常ナル細胞ノ分剖時間ノ出現ナリ、上記ノ如ク一般ニハ正常ナル細胞ノ分剖時間ノ出現ナリ、上記ノ如ク一般ニハ正常ナル細胞ノ分剖時間、植物細胞ニテル・大核小體ノ存在ラ認メ得ラル、事稀ナラズ、若シニケナルノ核小體ノ存在ラ認メ得ラル、事稀ナラズ、若シニケナルノ核小體ノ存在ラ認メ得ラル、事稀ナラズ、若シニケナルのと等ノ所見ヨリシテ直チ ニ核小體が核分剖 ニ不必要ナルを表

ルカ否カラ決定セントスル者二非ズ。

正常ナル細胞ノ核小體ハ Oxyphil ナラズシテ Mosse ガ

化セラレタルヲ見ル可ク、上記ノ如キ核小體ノ變化モ亦恐

whil: トリ・アトレ友子言スー・皆目子、信儿切り、各頁、合口切り、重新二層スレビ也、現

三注目ス可キ事ハ 此腫瘍ハ今迄ハ ハイデルベルヒ癌研究かんくろごハ其定型的 ナル 場合ニ ハ例ノ Cnemidocoptes mutans 二依り惹起セラル、濕疹様ノ皮膚病 ("Kalkbein "日本デモ「かいがら」或ハ「そてつ」ト云フテオル)ト關保ガアッテ、恐ラク間接ニハ此微生物ノ寄生ニ依リテ生ゼラルル者デアロウト思フ、尚ホ此家鶏ノ中足かんくろいごニ特に者デアロウト思フ、尚ホ此家鶏ノ中足かんくろいごニ特に大きした。

據二ハ此腫瘍ニ屢こけらちん形成像ヲ認メ得ラレ ル カラエンゼンノまうす腫瘍ハ上皮細胞性ノモノ デア ル其證

ダトモ云フテオル。

ト云フ事デアル。

因ニ就テモ其説明ハ充分デナイガ、恐ラクルースノ家鷄肉明ナル今日デハ、是等毛属ニ頻發スルめらの一むノ發生原ラシテ、ドーシテモ特別ナ病理發生ヲ考フ可キ者ト看做シ其頻度カラ云フテモ亦其色素移動ト關係ノアル事ナ ド カ其頻度カ

は、ステイッケルノ犬ノ外陰部圓形細胞肉腫、罅類ノ甲狀腫、ステイッケルノ犬ノ外陰部圓形細胞肉腫、罅類ノ甲狀

まうす!もろすくむ様腫瘍(Borrel-Haaland 丿, Tumeur molluscoide '')ハ毛嚢腫(, Haarfollikel-od, Haarscheidengesch wulst, Trichokoleom '')ト命名スルヲ至當デアロウト云ヒ、wulst, Trichokoleom '')ト命名スルヲ至當デアロウト云ヒ、ロカルナイ。

tität bzw. Analogie)ト云フニ過ギナイ、ダカラ動物ト人類似乃至異同問題ト云フ 點ニ於テ穂テ ノ動物腫瘍ニ普遍類似乃至異同問題ト云フ 點ニ於テ穂テ ノ動物腫瘍ニ普遍類にない。法則ヲ立テル事ハ出來ナイ、換言スレバカシテ完全無缺ノ同一 (Identität)ト云フ者ハナイモノデアリテ、唯種々ノ程度ノ多少不完全ナル類似 (即 relative Iden-

デ然カモ野鼠デアル。 雌カラ得タモノデアツテ、雄ノまうすノ腫瘍ハタツタ一例 ガ多イ、此事ハ特ニ飼養まうすニ著明デアツテトイチュレ ガ多イ、ソレカラ雌性ノ方ガ雄性ヨリモ一般ニ腫瘍ノ形成 幼若者ニハ肉腫ガ多クテ、老年者ニハ癌腫ノ發生ラ見ル事 者デアル、然シ極ク一般ニ云フト動物デモ人類ト同ジ様ニ 可キ者ガアル、即チ馬ダトカ、らって、鯉魚等ハ之ニ屬スル 性腫瘍が屢く見ラレル肉腫動物 ... Sarkomtiere "トモ稱ス 恐ラク之レニ屬スルダロウ、反之、主トシテめせんひーむ|ガー再ナラズ確カメラレテオル、ソレカラ或種ノ草食動物 ンデル氏ノ見タ 二百七匹ノ飼養まうすノ 腫瘍材料ハ全部

事ハ動物ノ方デハ消化器系統ノ癌腫ガ比較的ニ少ィ事デ デモ人間デモ同ジ事デアルガ、混合腫瘍ハ人間ヨリモ動物 反シテ動物ノ肝臓ハ可ナリ屋、腫瘍發生母地トナルガ、此 アルガ、之ハ恐ラク動物ノ消食管使用ガ一般ニ適于目的ナ ノ方ガ少シク多イラシク思ハレル、少シ特性ダト思ハレル 場合二八腫瘍ト寄生性感染トノ間ニ一定ノ關係ガアル事 ル極メテ自然的ナルガタメデハナイカト考エラレル、其二 ル事が認メラレテオルシ、良性及悪性腫瘍ノ關係モ亦動物 次二動物デモ色々ノ組織ガ腫瘍形成ノ出發點ト ナ リ得

> ラレル。 ル事ハ恐ラク飼料片ラ吸入スルガタ メデハナイカ ト考エ (馬、牛、羊)ノ呼吸道ノ惡性腫瘍發生頻度ノ比較的大デア

一至ル者デアル、ソレカラ著者ハ:Exposition"ト云フ事ラ オル。 内デ特別ナル素因ラ有スル動物ノ ミガ癌形成ラ呈ス ルニ 作用スル者デアツテ 先ジ慢性ノ痛先驅性狀態ラ星シ、其 Disposition ト云フ事カラ嚴格二區別ス可キデ アルト シテ 形成ノ原因トナ ルベ キ外的要因ハ間接ニ且ツ非特殊性 尚水動物ノ方デモ人類ト同ジク之マ デ知ラレテ オル病

シデモ特異デアルト認メラル、點二就テ特ニ論ジテオル、 腫瘍ハ極メテ著明ナ角化ラ呈スル扁平上皮細胞癌デァツ テ家鷄ノ腫瘍トシテハ最モ頻發スル者ダト云フテオル、此 ト對比シテ其原因的組織學的乃至生物學的性狀ニ於テ少 先が第一二家鷄ノ中足ノかんくろいごデアル、此ハ著者が 記ノ腫瘍ノ各々ニ就テ詳シイ論述ヲ試え、殊二人類ノ腫瘍 十八例ノ家鷄二就キ斯クノ如キ中足ノ所見ラ、二十三認メ トイチュレンデル氏ハ此あるばいミノ後半二於

テ、浸潤性養育及ど轉移形成ヲ呈シ、終ニ病鶏ハかへきし「腫、ステイッケルノ犬ノ外陰部圓形細胞肉腫、酵類ノ甲状

窯發生ノ少キ事ヲ確カメタリ(同上)。 及ブロイセン海岸地方ニハ揺發生多ク、西部工業地方ニハ生ノ地方的分布關係ハ從來ノ報告ト同ジク、東部農業地方生ノ地方的分布關係ハ從來ノ報告ト同ジク、東部農業地方

シ得タル例ユ、まうすニ人類惡性腫瘍ヲ移植

Keysser, Übertragung menscher maligner Gesch wülste auf Mäuse. (Arch. f.Klin. Chir., 114, 192 o, 730.)

組織ヲ動物ニ移植シテ發育陽性ノ結果ヲ得可キ希望アル組織ヲ動物ニ移植シテ要ニ移植ヲ以テ破壊スルヲ得ズ、著者ノ人類腫瘍ヲ動物ニ移植セントスル金テハ長時失敗ヲ繰リ返シッ、アリシガ、終底をシキ轉移ヲ示セル人類肉腫ヲまうすニ移植スルル事ニ甚シキ轉移ヲ示セル人類肉腫ヲまうすニ移植スル事ニ甚シキ轉移ヲ示セル人類肉腫ヲまうすニ移植スル事ニシテ、ようす體内ニ發育シテ更ニ移植ヲ積ケラル、腫瘍トナリ、接種部ニテハ浸潤性ノ發育ヲ呈ス、同様ニ人類肉腫組織ニシテ、ようす體内ニ發育シテ更ニ移植ヲ根ケラル、腫瘍トナリ、接種部ニテハ浸潤性ノ發育ヲ呈ス、同様ニ人類癌ニシテ、ようす體内ニ發育シテ更ニ移植ヲ根ケラル、腫瘍トナリ、接種部ニテハ浸潤性ノ發育ヲ呈ス、同様ニ人類癌ニシテ、ようす関性ノ致育場性ノ経育ヲリの臓ニ

ズ (同上)。

一九八五大二年五十二十二十二十二十二十五日、野香

酵素ニ就テ

Brahn, Über Oxydationsfermente in der normalen u. in d. Krebsleber. (Zischr. f. Krebsf. Bd. 17, 1920. H. 2. S. 417.)

武種類/癌腫ガ肝臓/かたらしぜ含有量ニ及ボス 影響 に就テハ既ニ報告セラレタル所ナルガ、著者ハ更ニ是等/ 部)であららしば含有量・測定ニ ハザルコウスキー/ 定量 大きりちららが含有量・測定ニ ハザルコウスキー/ 定量 大きりちらしば含有量・測定ニ ハザルコウスキー/ 定量 法ヲ用ヒ七例ノ肝臓ニ就キ研究シタルガ、ソノ成績ハ肝臓 法ヲ用ヒ七例ノ肝臓ニ就キ研究シタルガ、ソノ成績ハ肝臓 法ラ用ヒ七例ノ肝臓ニ就キ研究シタルガ、ソノ成績ハ肝臓 が失ヒ、尚ホ轉移結節ヲ有スル肝臓ノ肝組織 (痛化セザル 部) モ亦其酵素性酸化機能ヲ甚シク減退スルヲ見タリ (同 部) モ亦其酵素性酸化機能ヲ甚シク減退スルヲ見タリ (同

(譯者日、弦ニ論ビラレタ Identisch ダトカ analog ダトカト云フ所謂 Identifitsfrage ナル者ハ別ニ大シタ興味ハカト云フ所謂 Identifitsfrage ナル者ハ別ニ大シタ興味ハカト云フ所謂 Identifitsfrage ナル者ハ別ニ大シタ興味ハカト云フ所謂 Identifitsfrage ナル者ハ別ニ大シタ興味ハカト云フが加事が出來ナイ様ナ點モ少クナイ、例へバ上ニ受ケ容レル事が出來ナイ様ナ點モ少クナイ、例へバ上ニアが加速が表別に立てが加き事モツレが一ま家鷄ノ中足かんくろいごト云フが加き事モツレが一ま家鷄ノ中足かんくろいごト云フが加き事モツレが一方面ノ研究が少シ宛デモカ、ル報告ニ依りテ閉拓サレ方面ノ研究が少シ宛デモカ、ル報告ニ依りテ閉拓サレテ行の事ヲ嬉シク思フテオル)。

一、チザーランド地方ノ癌統計

Deelmann, Krebs n Niederland (Zeitschr. f. Kre-

生ノ地方的分布期係の逆來ノ服告と司ジク、東部變裝也ケーが叩シ、作是等ノ列ニテハ可等頂板能均差月

beforschr. Bil. 15, 2023, 11, 3, 8, 421.)

生ニ於テ瘤ョリモ地方的ニ konstant ナリ、(木村神)。 生ニ於テ瘤ョリモ地方的ニ konstant ナリ、(木村神)。 生ニ於テ瘤ョリモ地方のニ konstant ナリ、(木村神)。 生ニ於テ瘤ヨリモ地方のニ konstant ナリ、(木村神)。 生ニ於テ瘤ヨリモ地方のニ konstant ナリ、(木村神)。

プロイセンニ於ケル癌 四、一九一四—一五年度戦時中ノ

Behla, Der Krebs in Preussen während der Krie gsjahre 1914 u. 1915. (Ebenda, S. 492.)

痛の増加シ、乳痛の増減ナシ、一九一四~一五年度ノ痛養最初リ二年ニ於ア食道及胃ノ痛の明ラカニ減少シ、反之腸最初リ二年ニ於ア食道及胃ノ痛の明ラカニ減少シ、反之腸の特ニールー一年トノ比較ニ於テ旣ニ少シク低下セル ラニザー九一四年度プロイセンニ於グル瘤死亡例ノ全數 ハ 戦

らって二此條輯ノ卵ラ猫ノ糞カラ取ツテ食ハセル、ソウス 事が出來テ、然カモソレが寄生セル囊蟲壁カラ生ゼラレオ ticercus fasciolaris ノ囊胞ノ壁ニ偶發シテオツ タ肉腫ヲ見 出來タ動物ノ肝臓内デ生キテオル、此實驗ニ使用シタ動物 性率ノ如キモ九〇%ラ示シテオル者ガアル、覆蟲ハ腫瘍ノ らってニモ移植可能デアツテ既二五世代二達シ、其移植陽 又腹膜ニモ肺臓ニモ轉移ラ生ジテオル、 尚未此腫瘍ハ他ノ ノ大部分ラ占メテオリ、其數モ亦一筒乃至多數ラ示シテオ 肉腫デ、小サイ腫瘍結節或ハ大キナ瀰蔓性腫瘍トシテ肝臓 ル肥頸絛蟲 Taenia crassicollis ノ幼蟲期ニ相當スル、多數ノ ノデアル、此組狀義蟲 Cysticercus fasciolaris ハ猫ニ寄生ス タ事ト開聯シテ、更二此內腫發生ラ實驗的二檢索シテ見タ ル、尚ホ腫瘍ハ周圍ニ浸潤性ニ發育シ例エバ膵臓ラモ侵シ ル、此腫瘍ハ或者ハ紡錘形細胞肉腫デアリ或者ハ多形細胞 ルト約二百十匹以上ノら、て二肝臓肉腫ラ 發生セシメル ンバーグ及バルロックガらってノ肝臓ニ寄生シテオル Cys- | 方法デ多クノ割合ニ動物ニ腫瘍ヲ生ゼシ ム ル事ガ出來ル ツテ八乃至十五ヶ月カ、ル、茅者等ノ實職ハ極メテ簡單ナ シテ其系統ハ五種類アル、內腫が出來ル迄ノ期間ハ種々ア ハ九ヶ月半乃至十八ヶ月ノ年齢デ雄モアレバ雌モアル、ソ

究ニ歩ラ進メル事が出來ル、尚ホ多クノ剖檢動物ノ寫真及 事ラ示シ、且ツ之ヲ基礎トシテ更ニ種々ナル腫瘍問題ノ研 特有ノ腫瘍ラ有シテオル者ダカラ、此らってノ肉腫形成ラ ビ顯微鏡寫真等ヲ見テモ肉腫ナル事ハ疑フ餘地ハナイ。 バナラヌト云フテオルガ極メテ尤モノ事デアル(同上)。 以テ直チニ人類ノ肉腫形成ヲ速斷シ去ル事ヲ避ケ ナケレ 尙水此演說ノ討論デ Ewing, Wood 等ハ各動物ハ各其~

THE THE PARTY NEW YORK FRIENDS

一〇、癌組織分剖像及ビ血管ニ及 ボスれんち*ん照射作用

化ダロウト考エラレル(同上)。 ガ之ハ恐ラク癌腫ヲ除去スルニ直接關係アル積極的ノ變 ルノハ分剖像デアル、尚本其外著明ナル血管ノ新生ヲ見ル れんちゃん照射二依り 癌組織中最モヒ ドイ影響ラ ウケ äfsse (Münch. med. Wochenschr. 28, 1921, S. 881.) Mitosen im Karzinomgewebe u. auf die Blutge-Reichold, Die Wirkung d. Röntgenstrahlen auf die

一一、たーる成分ニ依ル實驗的癌 形成並ニ其淋巴腺及ビ肝臓轉移

〇抄

錄

ガテ 七、癌ノ骨轉移ニ於ケル血液像ニ

Helmreich, Über das Blutbied bei Karzinomatögen Knochenmetastaen. (Dtsch. med. Wochenschr., 47. 1921, H. 1)

異ル新腫瘍ノ發生及ビ其刺戟説八、移植ニ際シテ組織學的ニ全ク

Lewin, Die Entstehung histologisch neuartiger Tumoren bei der Transplantation u. ihre Beziehu ngen zur Reizlheorie. (Zeitschr. f. Krebsforsch. Ed. 17, 1920. H. 3, S. 556.)

他ノ研究者が既二報告セルト同ジク著者モ亦惡性腫瘍

ンバーグ及バルロックがらってノ圧職ニ寄主シテオル「いこ」が去デタクノ引合ニ動物ニ重新をとざっ、レドが出版と

因) モ亦意義アリ(同上)。

因) モ亦意義アリ(同上)。

て肝臓肉腫 生成セラレタルらっ

Bullock u. Curtis. The experimental production of Sarcoma of the liver of rats. (Proceof the New-York path. soc. N. S. Vol. 20. No. 6-8, Oct.-Dec. 1920.)

瘍形成ニ就キ敍說セラレテオル、此實驗ハ Crocker special Research Fund of Columbia University New York デローデ

他をおいる祖のノンニン方見物で見れる 非智生性原因

Bloch u. Dreifuss, Über die experimentelle Erzeugung von Carcinomen mit Lymphdrüsen-u. Lungenmetastasen durch Teerbestandtheile. (Schweiz. med. Woch., 1921, 51, 10,37-7.)

事ニ依りテ大ナル甚ダ悪性ノ腫瘍ヲ生ゼシメ得可シ(同事ニ依リテ大ナル甚ダ悪性ノ腫瘍ヲ生ゼシメ得可シ(成たんこ溶解ス、然シテ此物質ハ蒸鰡後モ尙ホ癌ヲ生成スんちんニ溶解ス、然シテ此物質ハ蒸鰡後モ尙ホ癌ヲ生成スル物質ガたーるノ一成分トシテ存在セル事

Saul, Untersuchungen zur Aetiologie u. Biologie der Tumoren. XXXIII. Mitteil. (Hufkrebsgeschwulst-Bottyomykom,-Plexus-Cholesteatom,-Melanosarkom u. Gliosarkom des Auges). (Centralbi.

シティトに、いいかとはり、れころりとことで

f. Bakt. u. Parasitenk., Abt, 1, Orig. Bd. 85, 19 20, H. 2.)

一、馬ノ蹄癌ハ人類ノ Kondyloma acuminatum ニ類似セー、馬ノ蹄癌ハ人類ノ Kondyloma acuminatum ニ類似セー

ナルヲ以テ決シ テ真直ノこれすてあこーむト認ム ル能三、人ノ Plexus-Cholesteatom ハ上皮細胞ヨ リ酸生ス ル者三、馬ノほこりおみこーむハ炎性肉芽腫ニシテ良性及悪性

ハズ、其内ニ球菌ヲ證明シ得タリ。

慢性炎ラ惹起スルアラユル病原物ラ思考シ、非寄生性原因

六月 十二日 楯 新 太

二十日 金五百圓(五ヶ年賦)本 多 金旗百圓 本 念 忠

金五百圓(同 t. 肥

六月

同

金五百圓(同 長 與

金五百圓(同 金五百圓(同 稻 木 村 田 旭 德

金五百圓(同 金五百圓(同) 金五百圓(同) 男爵 佐 高木 田 本隆 废 喜寬殿 重殿

同 同 同

金壹百圓 金五百圓 高 稲 井 橋 是 郎殿

八月

Ŧi.

日

七

B

金貳拾五圓 金五百四(五 ケ年賦)後 間 聯 風雲堂殿 Œ

n 同

十四四 八 H B 金壹百圓 金五百圓(ニヶ年賦)若 高 ILI 林 長 英

八月

十四日

金五百圓

早

111

F

吉

邮殿

〇維

報

同

八月 同 同 二十三日 二十六日 十五日 金壹百圓 金壹百圓 金五百圓(五ヶ年賦)吾 米 = 好 111 妻 柏 重 勝 道殿 剛殿

一金茶干明

一 即 殿

癌研究會會員諸君二謹告不

本會會費(本年ヨリ金五圓) ニテモ御渡 二集金郵便ニ託シ可申候間御 シ被下候樣御取計置被 近日中 不在

下度此段御依賴申上候

報

○棚蔵宮季電式 伏見宮博恭王殿下奉戴式ハ 旣報ノ 如ク五 | ○永樂銅院視察 六月二十五日長與理事長、鹽田、 舉行ス(詳細記事ハ別ニ郵送ス) 月二十五日午後六時ョ リ 丸ノ内日本工業俱樂部ニ於テ

〇第五囘理事會 大正十一年六月十二日理事會開催。 決議事項左ノ如シ、

密附金募集ニ關スル件、

一、X光線購入及設備ニ關スル件、

評議員嘱託ニ關スル件、

會頭ノ推薦ニ依り左記諸氏ニ評議員ラ嘱託ス 部 金

敬

一金彩千川

敬二郎殿

田各理事 ハ小石川區雑司ケ谷永樂病院ラ訪問シ 今後ノ 設備ニ付キ視察スル所アリタリ。 木村、稻

〇寄附金

左記諸氏ハ本會主旨ラ贊助セラレ左ノ金額ヲ寄附セラル n 六月二十一日 五月二十五日 月 月二十九日 月三 B 日 一金五千圓(五ヶ年賦) 一金壹百圓 一金爪千圓(五ヶ年賦) 一金五百圓 金壹百圓 金壹百圓 金壹百圓 金壹百圓 男爵 森 三輪善兵 濱口吉兵 村清 野 服部金太郎殿 田 四 又策殿



THE REAL PROPERTY AND ADDRESS OF THE PARTY AND 以此因 一京原管理文本本學所 不成 通